

印象記

印象記

グループ IA 上田 大介

「全国の各大学を代表する薬学部生と、今後の薬剤師の将来について議論する。」

この第3回全国学生ワークショップに参加することが決まった時、私はこのような大会に参加できることを光栄に思う一方で、大学を代表しなければならないという重圧を勝手に抱え、初日を迎えていました。そのような中、イントロダクションで「皆さんは、大学を代表していると思う必要は全くありません。薬学生の一人として、素直で忌憚のない意見をもって参加してください。」という言葉をいただけたおかげで、肩の荷が下り、このワークショップに一人の薬学生として参加できたことをうれしく思います。

私がこのワークショップを通じて、これからの自分に必要だと感じたことは、「探究心をもつ」ということです。2日間を通して、多くの人と議論を交わす中で、薬剤師はいろいろな形で社会に貢献していくことができると感じました。どのような形で社会に、そして患者さんに携わっていくにしても、目の前の事柄に疑問と探究心を常に持ち、それを改善していこうと努力することで、より良い社会を築いていけると信じます。

グループ IA 大塚 雄天

今回、全国70大学の学生が参加するワークショップに参加させて頂きました。全国の薬学生と交流する機会は、今回が初めてであり、きちんとコミュニケーションをできるか不安に思いながら参加しましたが、アイスブレイキングのプログラムや雰囲気の良いこともあり、不安は見事に払拭されました。その中で、「薬剤師として医療・社会に対してどのように貢献していくか」というテーマに対して、学んできた環境が異なる者同士が議論することは、楽しくもあり、難しくもあり、1つのプロダクトを皆でまとめるのは非常に苦労しました。

また、卒業生や講師の先生方の講演の中で出てきたエビデンスの重要性に関する話には非常に触発されました。さらに、その考えを受け、チームの皆で考えた最後のプロダクト、「患者さんにとって最適な医療を提供する架け橋となる。妥協せず、探究心を持ち続けるべきである。」という志を大事に、患者さんを始め、様々な人に必要とされる薬剤師になりたいと強く思うことができました。

グループ IA 黒澤 卓

今回のワークショップに参加してまず驚いたことは、他大学の方の将来像が多岐にわたっていたということでした。例えば、病院であれば社会人Dr.として基礎研究や臨床研究に携わりたい、薬局であれば漢方の使用を通じて「薬局→臨床研究」という道を目指したい、といった具合で、薬剤師の可能性の広さを改めて意識することができました。

また、議論を通じて感じたことは、薬剤師の在り方は「情報収集・発信」という面と「業務の可能性の拡大」という面から規定されるのではないかと、ということです。まず「情報収集・発信」についてはPDCAサイクルという言葉があるように、問題の提起から情報収集・評価・発信およ

びフィードバックが一連の流れとして常に確立されている必要があると感じました。「業務の可能性の拡大」については、狭間先生の講演でもあったように、例えば現在の処方箋を見て調剤などを行う「薬を飲む前の業務」から、患者さんの状態に応じた処方の提案などの「薬を飲んだ後の業務」へとシフトしていかななくてはならない、すなわち薬剤師の立ち位置を常により良いものにしていこうとする意識が重要なのだと感じることができました。

最後に、第3回全国学生ワークショップを開催し、貴重な経験をさせていただきまして、関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

グループ IA 末釜 季美子

今回2日間にわたり、様々な意見・進路の薬学生たちと話し合うことは、自分のこれまでを振り返り、またこれからを考えるうえでとても良い機会となりました。

参加した学生は皆、意識が高く発信力のある方ばかりで、薬剤師が社会に貢献するためには何ができるのか、そして薬学教育をより良くするためにはどうしたら良いのかを語るなかで、私はこれまで考えたことのなかった意見に驚き、共感すると同時に自分の視野が広がったように感じました。講演会においても素晴らしいお話を聞くことができ、特に花井十伍先生の「医薬品は患者が命を懸けて育てるものです。薬剤師は科学に誠実であると共に、多くの患者と出会い、生命の尊厳を感じてほしい。」というメッセージに、改めて薬剤師になることへの責任を感じ、これから私たちができることはまだまだあるという思いを強くしました。

また、今回のワークショップで得た最も大きな収穫はたくさんの尊敬できる仲間に出会えたことだと思っています。皆と話し合う中で、私は「患者さんに寄り添える薬剤師になりたい」という以前からの想いをより強くしました。皆がそれぞれの場で活躍し、様々な分野から薬剤師が貢献できる社会になっていくと確信しています。

最後に、このような機会を与えてくださった皆様に心より御礼申し上げます。

グループ IA 高坂 祥菜

今回のワークショップへの参加は、6年間の大学生活の中で他大学の方々との交流・討論する機会は全くと言っていいほど無かったこともあり、かけがえのない経験であったと思います。SGDでは、自分自身を振り返り、卒業・就職後の自分のあり方を考える機会であるとともに、医療・社会に貢献するためには受け身になるのではなく、薬剤師自身が積極的に動いていくことが必要であると改めて実感しました。また、SGDを進める中で誰の視点で考えるかによって、できること・アプローチの仕方も異なるということの再確認ができました。

残念だったのは、他のチームのSGDの発表やプロダクトを見る機会が少なかったことです。多くの薬学生が集まっている貴重な機会だったので、もっと意見交換や質疑応答ができれば良かったと思いました。

最後となりますが、このたび貴重な場を設けてくださった関係者の皆様、そしてワークショップで出会った友人達に心より感謝申し上げます。

グループ IA 手島 一也

日本薬学会第3回全国学生ワークショップに参加させていただき、自分の視野が大きく広がったと思います。今までは自分が通う大学の取り組み等、自分の周りのことしか把握しておらず、知らず知らずのうちに、それが薬学教育のいわゆる「当たり前」というものであると考えていました。しかし、今回さまざまな大学の学生と触れることで自分の知らない取り組みや考えを知ることができました。また、共に意見を出し合い、考えることで、今後、こういう方向で医療が変わっていけば良いと真剣に話し合うことができ、短い時間ではありましたが、同じフィールドで働くものとしての絆が生まれたと思います。

自分が今まで感じてきたことを振り返ることはもちろん、今まで考えもしなかったことまで多くのものを吸収することができた非常に貴重な時間でした。このような貴重な時間を過ごさせていただいた以上、今回学んだことを、少しでも周りに共有したいです。医療が大きく変わることを求められている今、自分自身も広い視野を持ち、いろいろなものを吸収して、常に良い方向に変化していきたいと思います。いろいろなきっかけを下さる貴重なお時間を本当にありがとうございました。

グループ IA 中川 有衣

第三回全国学生ワークショップに参加させて頂き、他大学の方々との交流を通し、考えや想いの共感・共有、違う視点からの発見を見出すことができました。

今回のテーマは「薬剤師として社会への貢献・医療への貢献」でしたが、「貢献」は目には見えないものであり、自分自身が感じることもなかなか難しいことだと思いました。しかし、討論と発表を繰り返す中で、「貢献」＝「他の人から認められる・必要とされる存在となる」という考えが自分の中で生まれました。これからの私達に課せられた大きな課題は向上心・探究心・プロ意識の塊である仕事に対する「自信」を身につけていくことではないでしょうか。このワークショップの中で印象的だったのが、「チーム薬剤師」という言葉です。病院薬剤師や薬局薬剤師、MR、モニターなど薬学部からの職種は様々ですが、「薬剤師」の最終目的は「患者さんのために」ということに尽きます。この想いを一つにし、チーム薬剤師として行動していくことで、「貢献」という二文字が見えてくるのだと思います。

よりよい薬学部を目指し、そして、「薬剤師」を考え・語り合う場を経験させて頂きありがとうございました。

グループ IA 吉田 健

ワークショップ最終日の帰宅時に落雷によるダイヤの乱れに巻き込まれた。雷に限らず、最近では竜巻やゲリラ豪雨など異常気象が多い。我々が足を踏み入れようとしている医療の世界はどうだろうか。ワークショップのプログラムの一環として行われたグループワークでは、チーム医療、在宅医療、フィジカルアセスメント、ネット販売の解禁など様々な課題が提起された。TPPも考慮しなければならない。まさに”There's a storm coming.”という状況だ。「わかってはいたんだけど」、と後悔しないように準備を進めていきたい。

今回のワークショップではすぐれた仲間たちとの繋がりを作ることができた。これからやってくる嵐に立ち向かうときに、また自ら嵐を起こそうとするときに助けてくれる仲間たちだと思う。もちろん私も仲間たちから頼られる能力を備えた医療人になりたい。みなさん、今後ともよろしくお願いします。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった先生方に深く感謝いたします。

グループ IB 伊藤 智代

今回の全国学生ワークショップにおいて全国の薬学生と議論・情報交換できたことは、とてもよい刺激になりました。中でも印象に残っているのは、これからの薬剤師には発信力が求められるという議論です。グループディスカッションで私たち薬学生が話し合った時にも今後の目標として発信していくことは挙げられていましたが、それに加えて1期生・2期生の先輩方の発表においても発信力の必要性は強調されており、必要でありながらも現時点では十分に実践できていないのだと感じました。六年制薬学部を卒業する3期生として、発信力を高めるとともに、今後さらなる薬剤師の活躍が期待される中で積極的に行動を起こしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会の関係者の皆様およびタスクフォースの先生方に心より御礼申し上げます。また、2日間共に過ごし議論を交わした仲間たちに深く感謝いたします。

グループ IB 大森 紀和

この2日間のワークショップは、私の薬学生としての意識を高める素晴らしい時間となりました。今までは、大学内の医学部や歯学部といった他学部としか意見交換をする機会がありませんでしたが、今回のような薬学部同士での交流は初めてで様々な意見を聴き、吸収することができました。ここで出会った他大学の仲間達は意思が高く、薬学に関する情報量も多く、自分の視野の狭さを痛感し、これから外に目を向けて行こうと思うようになりました。この体験で得た多くのことを個人のものにするのではなく、大学へ還元して後輩の育成のために尽力していかなければなりません。「これから薬剤師としてどのように行動するか」という議題の中で、自分を振り返り今後のすべき行動を明確にできたこと、仲間達とのつながりを持てたこと、この2つはワークショップに参加して得た自分にとって大きな自信となり、薬剤師として働いていく中で支えになっていくのではないかと考えています。

このような機会を与えてくれたワークショップに感謝すると同時に、今後も続くように願っています。

グループ IB 岡部 由幸

日本薬学会第3回全国学生ワークショップに明治薬科大学代表として、2日間参加させていただきありがとうございました。

現在の薬学教育に不十分な点は確かに存在します。しかし、与えられたカリキュラムに甘え不満を言うだけでなく、自分ができる最大限の努力をすることが重要だと気づかされました。就職活動もひと段落し、少し気が緩んでいた時期だったので、非常に良い刺激となりました。

1つの大学内に籠っていると、徐々に視野が狭くなっていくことを実感しました。これまで意識しなかった自分の大学の特徴、長所、短所を再発見できました。大学でのSGDや実習がありましたが、メンバーのほとんどは顔見知りで、学生生活後半はどこか新鮮味にかけました。他大学や他学年との合同実習などを取り入れていけば、このWSの様にお互いにとって意識の向上に繋がると思います。

大学も、住む地域も、将来の職種も皆違いますが、薬剤師として、日本の医療をより良いものにしたいという思いは同じでした。このような仲間が全国にできたことを心強く感じます。

グループ IB 久米 美江

今回のワークショップでは『医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか』という大きなテーマを掲げ、その最終テーマに沿ってWorld caféやKJ法といった手法を用い、細かく順を追って議論していきました。学校も生活環境も異なる同年代の薬学部生と、医療に対する意識や薬剤師としての在り方について意見を交換しあう機会は今までなかったので非常に新鮮に感じました。また、それぞれの意識がとても高く、そのような人達と意見交換をすることは自分にとって興味深く、大変良い刺激になりました。

特別講演では、薬学部の学生であるにも関わらず、あまり聴く機会のない薬害についてのお話や、チーム医療の推進がより良い医療提供につながるという実践に基づいたお話を聴かせていただき、自分の薬剤師としての将来にも大きく影響を与えると実感しました。

2日間という短い期間ではありましたが、多くのことを考え、学び、吸収できました。緊張や不安を感じる間もなくWSが開催されたことも奏功し、予想以上に多くの人達と交流を持つことができ、参加させていただいたことに感謝しています。お手伝いしてくださったタスクフォースの方々にも感謝申し上げます。ありがとうございました。

グループ IB 佐藤 友香

日本各地から集まった薬学生と交流を深めることができよ経験となりました。

大学間における教育制度の違い、実習における地域や施設間の差など自身が体験していないことを他大学の学生から聞くことができ非常に興味深かったです。班での討論ではこれからどのような医療を目指し、そのためにはどのような能力を付け、何に取り組んでいかなければならないのかを話し合い、考えを深めあうことができました。しかしその過程で、様々な意見や価値観の下、話をまとめていくことは難しく苦戦しました。最終的に共通した“医療の満たされていないニーズを満たす”というテーマが見つかり、それを他グループに伝えることができ非常に有意義な発表になったと思います。

このワークショップを通して自身の力や考えが不足しているところがみえ、これからの大学生活を過ごす上で役立つヒントを多く発見することができました。さらに様々な意見交換ができ、視野が広がったような気がします。このような機会を設けてくださり誠にありがとうございました。

グループ IB 澤本 篤志

全国の大学から「医療、社会、薬剤師」に対し、様々な考えや高い意識を持った学生が集まり、薬剤師の将来像について討論できたことはとても良い経験となった。

SGDにおいて、今回のワークショップのテーマである「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」について深く議論していくなかで、医療において薬剤師が介入しなければならないカテゴリーが拡大していることが再認識できた。これは、日本の医療が日々変化していることの裏返しだと思う。私達は6年制薬学過程を修了した薬剤師として、これらの変化に対応し、医療のニーズに合う能力を持つ薬剤師になる必要があると感じた。総合討論では各グループから薬学教育に関する要望などが発表されたが、どのグループからも薬剤師の地位をより向上させたいという強い思いが伝わってきた。

今回のワークショップに集まった全国の学生と熱い討論ができ、大変貴重なとても濃い2日間を過ごすことができた。これからの薬剤師像を変えるのは私達であり、このような仲間に出会えたことをとても嬉しく思う。

最後に、後輩のみなさんには、このような催しに積極的に参加し、共に薬学界を盛り上げてほしいと思う。

グループ IB 志田 美春

最も印象に残ったのは参加者のモチベーションの高さです。どの班のプロダクトもそれを物語っていましたし、質疑応答の内容も深いものでした。

この交流を通して、私達はこれから共に薬剤師、ひいては薬学教育のあり方を考え、築いていく仲間なのだという意識が芽生えました。また、答えが一つとは限らない問題の答えを模索するためには、そうした仲間と討論することが大切だと改めて気付かされました。これは臨床現場にも通じていることだと思います。

これらのことをふまえ、これからもこうした出会いを大切にすることはもちろん、共に考え、共に悩む仲間であるために、常に向上心を持ち能動的に考えて行動する薬剤師であり続けられるよう邁進すると決意しました。また、この志を貫徹できるように努めます。さらに、私は薬学教育に携わりたいので、この経験をその方面でも活かせるよう頑張ります。

このような貴重な機会を賜れまして幸いに思います。この場を借りまして、議論を交わした参加者の皆様に敬意を表すると共に、開催にあたり尽力してくださった皆様に厚くお礼申し上げます。

グループ IB 藤戸 淳夫

6年制薬学教育を受けた全国の6年次薬学生との1泊2日にわたるワークショップ(WS)はとても有意義でした。参加当初は緊張しましたが、アイスブレイクでの他己紹介やWorld Caféで私達の過去、現在、未来について話し合う事で次第に緊張がほぐれ、互いに意見を出しやすくなりました。そして、その後のSGDや講演にて、様々な事を学びました。特に印象に残ったのが「医薬品は元々不完全な商品であるために多くの患者さんが命をかけて育てるという宿命を持った商品である。」という話です。この事をしっかり心に刻み、患者さんを、薬を知る努力を決して惜しん

ではいけないと感じました。そして、薬の専門家として、患者さんの病態を薬学的に判断し、予測する事で安全な薬物治療に貢献していきたいと感じました。今後、薬剤師となる上で取り組むべき課題がより明確となりました。

また、このWSに参加して最も良かったと感じた事は全国の6年制薬学部3期生とのつながりができた事はもちろん、1期生、2期生の先輩とのつながりができた事でした。先輩方から頂いた熱いメッセージを胸に薬剤師として社会に出てからもこのつながりを大切にしていきたいです。

グループ IC 青砥 孝道

私は、今までに他大学の薬学生と意見交換をするこのような機会がなかったので、今回の全国薬学生ワークショップに参加することで、新たに得られたものが多く、とても新鮮で貴重な経験になりました。同じ大学の学生からは出てこないような意見もあり、活発なディスカッションを行えたことが印象に残っています。また、異なる考えを持つ仲間と交流することは刺激的で、以前より広い視野で物事を考えることが出来るようになりました。

ワークショップに参加した学生の意識がとても高く、今まで自分の考えが甘かったことに気付かされ、何事も自ら行動を起こさなければならないと強く感じました。そして、薬剤師が活躍出来るフィールドは病院、薬局、企業、行政など様々あり、決して狭くはないことを再認識すると共に、理想とする薬剤師になるために、これからどのような行動をとらなければならないかを改めて考える良い機会となりました。

最後になりますが、今回のワークショップの開催にご尽力頂いた方々に深く感謝いたします。

グループ IC 赤川 善彦

私は今回、ワークショップに参加してよかったと思いました。それはこのワークショップが終わってからより一層強いものとなりました。全国に友達が出来た事はもちろん嬉しいことですが、それ以上に活躍する場が違って、同じ志を持ち、支えあえる仲間が全国に出来たという事が何より一番嬉しかったです。

ディスカッションでは、深い意見が交わされ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。その中で、自分の“目標である人と人との繋がりを大切にしたい薬剤師になる”というのは、最終目標ではなく通過点であることに気づかされました。薬剤師が変わることで医療の質が良くなるというお話を聞き、これからますます薬剤師が期待される存在になると確信しました。

今回参加できなかった学生にも、情報を共有し将来の薬剤師と一緒に支えていけたらいいなと思います。最後になりましたが、このようなワークショップに参加する機会を与えてくださった方々に感謝申し上げます。

グループ IC 植田 伊津美

今回ワークショップに参加し、衝撃をうけることがとてもたくさんありました。

まずは、ディスカッション。今までほとんど経験が無かったのですが、様々な人の意見を聞き、自分の考えと比較したりまたは、何が多数派の意見なのかを聞けたりできたのでとても楽しかった。

たです。他大学の同じ世代の仲間とたくさん話をし、色々な考えをもって学生生活を送っていることを知れたことが私にはとても新鮮でした。同じ環境で生活する友達とはあまり話す機会のなかった目標や、その達成度など深く考えたことがあまり無かった私にとって、しっかり目標を立てて学ぶことが大切だということを改めて考えることができました。

さらに、今までは自分が薬剤師になったらと自分の環境を中心に考えることが多かったのですが、花井先生や狭間先生など患者や医師など薬剤師とは違った立場から私達に望むことを聞いたことで、よりはっきりと将来の自分を意識できたように思います。ワークショップに参加し、自分の改善点、みんなの志の高さ、これからの私たちの可能性の大きさを感じる事ができたので、それぞれを社会への貢献として形に表せられるよう残りの学生生活を送ろうと思います。

あっという間に時間が過ぎていった2日間でした。ほとんど他大学の薬学部生との関わりが無かった私にとって、このワークショップで様々な価値観、考え方に触れられたことはとても有意義でした。2日間を通して私自身も人間として成長できたのではないかと思います。

今回の議論の中で、既存のシステムを変えていくべきだという意見を聞き、自分にはあまりなかった考えであったために驚きました。そして、それにはまず薬剤師が国民に認められることが必要であり、エビデンスに基づいた情報の発信が重要であるということを知り、刺激を受けました。将来薬剤師として働く上で、エビデンスに基づいた情報の発信を心掛けていきたいと思いません。今回このような志の高い方々とワークショップに参加して、その一員となれたことを誇りに思います。今後もワークショップのような全国の薬学部生の交流が深まる機会が増えていくことを願っております。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。そして、熱く議論を交わしたIC班の皆さんに感謝致します。

グループ IC 江崎 舞

全国の薬学生は、各々の大学での特徴的な教育プログラム、地域の特徴のある場所での実習等を基盤とした、多様な考えを持っており、そんな彼らとの討論は非常に刺激的でした。これまで、同世代の薬学生とこのような形で意見を交えた経験がなく、今回の討論を通じて、考えを共有できたり、全く新しい見解を得られたりしたことは、自分の将来を考える上で、とても大きな収穫となりました。

同時に、実習でしか外の世界を経験していない学生だけの討論には限界を感じました。今回、各班で討論を行い、様々な視点から、豊富な意見が出されました。それらを実現するために、難しい点、実状、また、その意見自体に問題はないのか、社会に出て様々な経験をされて来られた先生方・先輩方から、そのような視点からのご指摘もいただければ、より実りある討論になったと思います。参加者の学生は皆、その進路は様々ですが、真剣に薬学に向き合い、より良いものにしていきたいという願いは同じだと感じました。この出会いを大切に、共に薬学の発展に貢献していくことができればと思います。

最後に、このような貴重な場を与えて頂き、心よりお礼申し上げます。今回のWSが、今後の薬学教育に役立つことを期待します。

グループ IC 西谷 直也

今回の議論のテーマは”これから薬剤師としてどのように行動するか”という内容であり、研究者を志望する私にとって、普段あまり深く考えることはなかった。しかし、すでに薬局や病院といった進路が固まっている皆さんと議論できる、今までにない良い機会であったと思う。在宅医療等の現在の医療が抱える問題点と薬剤師の将来性について新鮮な意見を聞くことができた。一方で、6年制薬学部教育が臨床を重視しすぎるあまり、研究能力に関しては軽んじられているのではないかと感じた。議論の中でも出てきたが、薬剤師が今以上に薬物治療に関するエビデンスを構築し、医療へ貢献することを期待されている。大学や企業に限らず、薬剤師が臨床の中で研究に携わる必要性は、薬剤師が6年制になったことから増加すると考えられる。こういった中で、信頼性の高いエビデンスを構築できるようになるためには、大学において質の高い研究を行うことで得られる経験や知識が必要なのではないかと感じた。逆に、研究者は臨床の問題点に関して常に新しい知識を取り入れていく必要があると感じた。しかし、実際にどうすればいいかということは、これから考えていかなければならないと感じた。

グループ IC 根本 佳奈

今回のワークショップでは、全国の薬学生とのディスカッションや花井先生・挟間先生のご講演といった貴重な機会を頂けたことで、薬剤師という職を以前よりも多角的に捉えられるようになったと感じています。他大学の薬学生とのディスカッションを行った際、薬剤師という職業や活動に対する価値観の幅が想像以上に広いことに驚きました。異なる環境で学んできた方々とお話しする機会がなかったら、このような素晴らしい価値観とは出会えなかったと思います。また、自分の中にあった価値観も更に明確になり、自分が今後どのような薬剤師になりたいか、そのために何をすべきかがより具体化されました。

今回のワークショップを終えて、私が特に大切だと感じたことは「行動力」です。このような貴重な体験も、ワークショップに参加させて頂けたからこそ得られたのだと思います。今回の経験を活かして、今後も医療人として視野を広く持ち・学び・共有し・考えたことを発信し続けていこうと思います。最後になりましたが、このような貴重な経験をさせて頂けたことに深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

グループ IC 長谷川 彩薫

2日間有り難うございました。今回このようなワークショップで全国の薬学生と接することで、6年制の薬学を学んだ者としてこれからどのように社会に貢献していくべきかを改めて考えさせられました。薬剤師だけでなく、研究者、MR など様々な進路に進む仲間と接し、私たちが人任せでなく自ら情報を発信しなければ、現状はかわらない。そして、それぞれの道に進んでも、その世界だけで生きていくのではなく、連携し、情報交換することが、現状を変えていく近道であることを感じました。これらは自身の大学にいただけでは学べなかった事だと思います。だからこのような機会を増やし、そしてわたしたちが行動することでさらに多くの薬学生とより良い将来を築けるといきたいです。ワークショップに参加させていただき本当に有り難うございました。

私は、今までに他大学の薬学生と意見交換をするこのような機会がなかったので、今回の全国薬学生ワークショップに参加することで、新たに得られたものが多く、とても新鮮で貴重な経験になりました。同じ大学の学生からは出てこないような意見もあり、活発なディスカッションを行えたことが印象に残っています。また、異なる考えを持つ仲間と交流することは刺激的で、以前より広い視野で物事を考えることが出来るようになりました。

ワークショップに参加した学生の意識がとても高く、今まで自分の考えが甘かったことに気付かされ、何事も自ら行動を起こさなければならないと強く感じました。そして、薬剤師が活躍出来るフィールドは病院、薬局、企業、行政など様々あり、決して狭くはないことを再認識すると共に、理想とする薬剤師になるために、これからどのような行動をとらなければならないかを改めて考える良い機会となりました。最後になりますが、今回のワークショップの開催にご尽力頂いた方々に深く感謝いたします。

グループ IC 安原 直紀

あっという間に時間が過ぎていった2日間でした。ほとんど他大学の薬学部生との関わりがなかった私にとって、このワークショップで様々な価値観、考え方に触れられたことはとても有意義でした。2日間を通して私自身も人間として成長できたのではないかと思います。

今回の議論の中で、既存のシステムを変えていくべきだという意見を聞き、自分にはあまりなかった考えであったために驚きました。そして、それにはまず薬剤師が国民に認められることが必要であり、エビデンスに基づいた情報の発信が重要であるということを知り、刺激を受けました。将来薬剤師として働く上で、エビデンスに基づいた情報の発信を心掛けていきたいと思えます。今回このような志の高い方々とワークショップに参加して、その一員となれたことを誇りに思います。今後もワークショップのような全国の薬学部生の交流が深まる機会が増えていくことを願っております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。そして、熱く議論を交わしたIC班の皆さんに感謝致します。

グループ IIA 井上 知哉

今回のワークショップを経験して、まず言えることは、このような交流の機会にぜひ、薬学生は参加すべきであるということです。なぜなら、普段あまり関わる事のできない他大学の薬学生と議論し、意見を交換することで、新たな視点で物事を見ることができるようになるからです。自大学では、薬局・病院薬剤師になる人が大半で、あまり企業やMRに就職をする人はいません。参加した学生のなかには、臨床の薬剤師だけでなく、将来様々な業種に進もうと考えている人がいました。そこで、「自分の夢とは何か」を話し合うことで、とても刺激を受けることができました。なかには日本だけでなく、世界に目を向けている人もおり、私は今まで小さな視点でしか物事を見ていなかったのだと痛感させられました。

今回のような交流の場を活用し、「横のつながり」を学生のうちに持つことで、社会に出た際、様々な職種間での情報共有ができるようになることから、非常に大切な機会だと思えました。1泊2日という非常に短い時間でしたが、すぐに打ち解けることができ、非常に有意義な時

間になったと思います。今後もぜひ、このワークショップを続けていってください。どうもありがとうございました。

グループ II A 高田志穂

私は大学からワークショップの勧めがあるまでは、このような全国の薬学生が集まるような交流があることを知りませんでした。この度、このワークショップに参加でき、本当に良かったと思います。

私が今回とても印象を受けたことは、この薬学という分野はとても幅が広いということです。幼い時から薬剤師になって人の役に立ちたいという夢を持って薬学部に入學し、5年間やってきたわけですが、ワークショップに参加するまでは薬剤師は病院、薬局で働く人がほとんどであると思っていました。しかし、様々な大学の方と交流していくうちに、『薬剤師』でもいろいろな視点から見えていくことはたくさん見つけられるということがわかり、同時に自分の視野の狭さを痛感いたしました。

普段他校の学生と接する機会がないため少し緊張していましたが、討論をしていくうちに自分と同じ考えに出会えたり、また違う意見に共感できたりして勉強にもなったし、つながりも増えてとてもうれしかったです。しかし同時に、もっと早くにこのワークショップに参加しておきたかったなとも思いました。私は今回のワークショップをきっかけに、もっといろいろな会に参加したいと思い始めました。このワークショップから患者さん第一の医療と、つながりの大切さを感じました。この気持ちは今もこれからも持ってい続けていきたい大事な初心であると思うので、またこのような機会があるならば是非参加したいと思いました。このような素晴らしいワークショップに参加させていただき、関係者皆様方に深く感謝申し上げます。

グループ II A 高橋 晴也

率直な感想と致しまして、今回の日本薬学会第3回全国学生ワークショップへの参加は、とても価値あるものだったと感じております。なぜなら、今後の医療について深く考えるきっかけになったからです。

2日間を通して行ったディスカッションでは、他大学の薬学生の意識の高さに驚いたことは勿論でしたが、個々の学生が薬剤師として医療にどう貢献出来るかを考え、行動している点に最も驚きを覚えました。ある学生は、薬剤師と医療従事者間の信頼関係を早くから築くために、学生のうちから交流の場を提供する活動等を行っていました。このように将来の医療をより良いものとするために行動を起こしている学生がいる事実は、私にとって良い刺激になったと思います。近い将来、一人の薬剤師になる者として、未来の医療の為に何が出来るのかを考えるきっかけになりました。

この2日間は本当に有意義な時間を過ごすことが出来たと思っております。今回のワークショップで出会った学生の方々、ならびにタスクフォースの先生方にお礼申し上げます。ありがとうございました。

グループ II A 土屋 真奈美

今回のワークショップへ参加は私にとって大変刺激的なものとなりました。特にその大きな要

因となったのが、人との交流です。この2日間のディスカッションや情報交換会を通して、私がこれまで抱えてきた6年制教育の現状や改善点について同様の考えを持った仲間と知り合い意見交換ができたこと、さらに近い将来薬剤師として社会に貢献するためには今の自分に何が足りないのか、そしてこれから何をやるべきなのかを改めて確認できたことは大きな収穫でした。

現在、チーム医療への薬剤師の貢献について平成24年度の診療報酬改訂で病棟業務実施加算が新設されたことなどからも重きを置かれていますが、私も実務実習を通して薬剤師の職能拡大の可能性をひしひしと感じました。薬剤師の地位向上が騒がれている昨今、それを実現するためには6年制薬学部卒業者の活躍が重要だと考えます。その一員としてまずは自らの夢を実現するため、現状を把握し、目標を立て、一步一步努力していくことが重要であることを再認識するとともに気を引き締め直すことができました。そしてこれからもこの全国学生ワークショップでの出会いを大切に、刺激を受けながらモチベーションを高く持ち続け成長していきたいです。

グループ II A 長塚 健太

今回、私がこの「第3回全国学生ワークショップ」を通して最も実感したことは、「伝えることの大切さ」です。

2日間を通して様々な考え方の学生とお互いの想いを伝え合い、理解を深めることが出来ました。話すことや人前に立つことが苦手な方もいれば、逆に得意な方もいます。しかし、たった2日間、自分をさらけ出して語り合っただけで初対面同士だったグループの8名が一致団結して一つの想いを表現し、伝えられるようになりました。

II Aでは「育む」というテーマで薬学生教育、患者教育などを話題に議論をしました。しかしそれ以前に、このワークショップに参加したことで得た、経験・マインドを同期、後輩に伝える責任があると思います。自分が参加したことで他の誰かは参加できていません。もちろん学生ワークショップなので大学教員や臨床で活躍されている薬剤師も参加できません。このような貴重な体験を各地域、各大学で行い「生の声」を伝えていくことが大切ではないかと思います。

北海道は海に囲まれており、なかなか他都府県の学生と交流する機会はありません。全国の薬系大学6年生70名が集うワークショップに参加させていただけたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

グループ II A 松村 祥平

第三回ワークショップを終えて、まず初めに感じたのはこのワークショップに参加して良かったということでした。ワークショップで何をするかということはあまり詳しく理解しておらず、全国の薬学生と話がしてみたいな、という軽い気持ちで参加していました。ワークショップでのグループディスカッションでは、「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献、私たちの目指すもの」などの課題が与えられ、それぞれのグループで話し合いを行いました。このディスカッションをする中で自分以外の人がどのような薬剤師をめざして今後やっていくのかという意識の高さを痛感させられると同時に自分の目的意識の低さを感じました。また親睦会ではグループ以外の人とも交流し、たくさんの考え方を学ぶことができました。一泊二日という短い時間でしたが、ワークショップが終わるころにはこれからも情報を交換していきたいなという仲間も見つけるこ

ともできました。繰り返しになりますが、第三回ワークショップに参加することができて本当に良かったです。

グループ II A 大和 幹枝

2日間、瞬く間に過ぎ去りました。全国各地から薬学生が集まるこのような機会に参加でき、とても良い経験をさせて頂きました。各セッション1つ1つの内容が濃く、6年制薬学教育を始めとして改めて考えさせられることが大変多かったです。SGDでは、積極的な意見交換ができると共に、他の方々の意見を拝聴することで新たな意見へと発展していきました。そして、これからの薬学教育がより良いものになればという気持ちが更に高まり、皆さん一緒にその思いは共通しているのだと実感いたしました。1人1人の環境は違いますが、その中で私たちに出来ることは何であるかを、再考する良い機会になったと思います。これからも、このような機会が設けられることで後に続く後輩が更に良い環境で勉学に励める様になることを切に願うばかりです。

最後になりましたが、2日間貴重な経験をさせて頂き、誠に有難うございました。この場を借りて、関係各所の皆様に厚く御礼申し上げます。

グループ II A 吉田 彩綾沙

全国の薬学部生が一同に集まるとても貴重な機会に参加でき、楽しい時間を過ごせたことに感謝しております。そして、今後ともこのワークショップが継続し、さらによりよいワークショップになることを願って、意見を書かせていただきます。

私は当初、6年制薬学教育の改善点を模索することがワークショップの目的だと理解していました。そのため、実務実習の期間や体制に疑問を持っていた私にとって、後輩たちがよりよい実務実習を行うことができるように、実務実習で感じたことを伝えられる場であると期待しておりました。しかし、今回のワークショップの進め方は、「私達の目指すもの」からテーマ（島）を絞った上で、次のセッションのSGDへと進んでいきました。実務実習での改善点を話し合える機会が「私達に取り組んでいくこと」でのSGDのみとなっており、その時点ではテーマ（島）が絞られていたためになかなかテーマ以外の見方での意見が出しにくかったと思いました。その反面で、今まで深く考えていなかった見方で6年制薬学教育を振り返ることができたことで、長いと感じていた6年間は薬剤師の未来のために必要な期間であったのだと実感することができました。

グループ II B 大沼 裕樹

今回のワークショップは、全国から集まった6年制3期生の異なる考えや価値観に触れることができ、非常に有意義な経験を積むことができた。薬剤師としてのゴールは同じでも、病院・薬局・行政・企業など、ゴールに辿り着くまでに違った道を進んでいく仲間の意見はとても参考になった。

2日間で特に印象に残ったこととして、『能動的に動くこと』と、『広い視野を持つこと』という2点をあげたい。議論の中で、実習内容やカリキュラムに対する要望が多数上がったが、制度の問題があるにせよ、自ら“能動的に”行動することで解決できる問題も多いのではと感じた。“薬剤師”に求められることは職種によって違うのだから、薬学の軸をベースにして、個々の立場を理解し、必要な能力は自ら補っていくことも必要だと考えさせられた。また、多くの人と関

わることで、視野が広がっていくと感じた。そのような意味でも、今回創り上げた横のつながりを活かして、同じメンバーで5年後や10年後にディスカッションできる機会があれば、とてもおもしろいと思うし、後輩にも還元していくことができるのではないかと思う。特別講演の先生の言葉を借りるならば、今回のワークショップがスタートであり、これから先を見ていかなければならないのではないかと考えるきっかけになった。

最後に、ワークショップにおいて共に議論した同期の仲間と、指導して下さったタスクフォースの先生方に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

グループ II B 音羽 亮

今回のワークショップでは、『医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか』というテーマで2日間にわたり、他大学の薬学生との意見交換や活発な討議を行なうことができ、これからどのような薬剤師が求められ、そのためには何が必要かを考える良い機会となりました。私自身、目指す薬剤師像を改めて考えるきっかけになったのと同時に、自分以外の薬学生がどのような考えを持っているのかを聞き、それぞれの考えを共有することでそれまで根底になかった考え方も芽生え、とても刺激を受けました。討議の中で最も印象に残ったことは「自主性・積極性を伸ばす重要性」についてです。薬の専門家（プロフェッショナル）として責任感を持って自ら行動することや幅広い視野を持つことの重要性を改めて感じました。既存のものを基盤としつつ、6年制教育で学んできた私達にしかできない役割や新しいフィールドを私達自身で開拓していかなければならないと考えましたし、そのための努力を今日からしなければならぬと強く思いました。そのための方法は様々あると思いますが、今すぐ出来ることから着実にいき、周囲を巻き込みながら次へと受け継いでいくことが大切なのではないかと考えました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を設けて下さった日本薬学会ならびに関係者の皆様に心より御礼申し上げます。薬剤師として、将来患者さんに還元できるよう、この経験を生かして努力していきたいと思えます。

グループ II B 春日井 悠司

全国の薬学生を交えたワークショップに参加した事は初めての体験であり、皆将来に対するモチベーションが高く、自分にはない斬新な考え方や視点、また、自分と同じ考えを持つ薬学生に出会えたこと、さらに卒業生の方の視点からも意見を聞くことができ、非常に刺激的な2日間でありました。

今回の討論では、固定概念に捉われない、地域ネットワークを生かした「薬薬薬薬薬連携」（病院、薬局、企業、大学、行政）という言葉が、私達の班で出ました。「チーム医療」が重要と叫ばれる中で、それは病院内での多職種間だけでなく、地域の薬剤師間でも行う重要性を感じることが出来ました。同じ薬学生であっても各々違う将来像を描いている者同士が討論し、かつ6年制教育により皆が臨床や行政、研究をすべて経験してきたからこそ生まれた言葉であると考えます。そして今後、6年制で培った“自主性・協調性・積極性”を忘れず、この仲間で「薬薬薬薬薬連携」を世に生み出していきたいという思いでいっぱいであり、私は病院薬剤師として力になりた

いです。

最後になりましたが、貴重な経験の場を設けて頂いたワークショップ関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

グループ II B 金本 和磨

今回、日本薬学会第3回全国学生ワークショップに参加することで普段の学生生活で体験出来なかったことを多く体験することが出来ました。セッションの内容は「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」についてKJ法を中心として二日間ディスカッションしました。一人ひとりが意見を出しあい、最終的に将来薬剤師として必要なことについて、まとめて発表しました。SGDでは、他の学校の人たちと話し合ったのですが、大学が違うことで持っている知識や体験したことが違い様々な意見を出しあうことができました。同じ大学内でSGDの経験はあったのですが、今回のワークショップで様々な考えがあること知り、貴重な体験が出来ました。全体を通して、数多くの他大学の人たちと触れ合うことができ、同じ薬学部ですが、こんなに違った考えを持っているんだと驚きました。今後この経験を生かし、社会に貢献できる薬剤師を目指していきたいと思います。さらに一緒にこの貴重な体験をした多くの他大学の友人たちと、同期の薬学生として頑張っていきたいと思います。

グループ II B 小西 智洋

日本薬学会第3回全国学生ワークショップに参加させていただき、有意義な2日間を過ごすことが出来ました。今回、「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」というテーマに対し、全国の薬学生とディスカッションすることで、視野を広げ、新たな視点に気付くことができました。

参加された薬学生たちは、個々に様々な進路があり、また今までの経験からそれぞれ違った視点や立場があることで、WS全体として意見が豊富という印象を受けました。お互いに意見があることで常に話の絶えない素晴らしいディスカッションだったと思います。全員で話し合った後、気持ちや考えを互いに話したことで、短い時間ではありながらグループを通して、仲間意識が芽生えました。

講師の方々の講演では、医療の在り方や将来への考え方などを発見また再確認しました。貴重なお話を聞くことで、自分の考え方と向き合い薬剤師について深く考える事が出来ました。

この2日間は私にとって、多くの考えを共有し、楽しめる仲間ができ、これからの薬学生・薬剤師について真剣に考えることのできた2日間でした。ありがとうございました。

グループ II B 平位 祐実

2日間という短い期間でしたが、同じ課程を通ってきた全国の同士の持つ様々な意見に触れることで大変視野が広がり、またそれぞれの持つ高い意識から大変刺激を受けました。同時に、仲間内で各々が日頃感じている問題点を出し合い、様々な視点から見て解決策を見出していくことや、薬学出身者として協力し合い、医療・社会をよりよいものにしていこうと努力することの重要性を強く感じました。

2日間で心に刻まれたことは、ないものは作り出す姿勢を持つことの重要性です。薬学部が6

年制課程になったことも、薬学出身者が医療・社会により貢献していくために新たに切り開かれた道だと思います。さらに良くするためには何をすべきか、そのためには何が必要なのか、どうすればそのような環境が作れるのかを2日間とことん議論しました。自分達で全てを行うには限界があるため、多くの人とコンタクトをとれるコミュニケーションの幅はやはり必要だと感じました。今回のWSは、それを作る本当によい機会でもあったと感じております。貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。もっともっとたくさんの方に、このWSを経験して頂きたいです。

グループ II B 平山 亜都

ワークショップへの参加の依頼を受け、当初は他学の学生とコミュニケーションがとれるかどうか不安でした。参加していた学生は皆、とてもフレンドリーですぐに打ち解けることが出来ました。この2日間、今までとは違う多くの刺激を得ることができ、とても有意義な時間が過ごせました。学校が違っても、薬剤師に対する志は一緒であるということで、討論でも全員がしっかりと自分の意見を出し、熱心に参加している姿に、強い感銘を受けました。お互いの意見に耳を傾け、さらに意見をだす白熱した討論に、新鮮さを感じ興奮してばかりでした。

今回で3回目ということで、私達のために駆けつけてくださった1期生、2期生の現場に出た先輩方の貴重な意見も聞くことができ、改めて考えを見直していくことも必要だと強く感じました。このような経験は、なかなか出来るものではありません。私自身、これからもこのような集まりに積極的に参加し、みなさまのお役に立てたら幸いです。

ワークショップへの参加のきっかけを作ってくくださった先生方、タスクフォースの皆さま、先輩方、そして全国の仲間たちに深く感謝を申し上げます。

グループ II B 南谷 怜亜

今回ワークショップに参加させて頂き全国の薬学部の学生と交流することができ、とても刺激を受け視野も広がりました。他学部との交流など他大学で行われている取り組みも知ることができ、自分の大学でも取り入れてほしいと感じるものもありました。

私がワークショップを通して感じたことは、薬剤師として社会から求められていることをもっと理解する必要があること、薬局・病院・企業・大学・行政などが互いに連携することで医療の質を底上げできる可能性があることです。また花井さんや狭間先生のお話から、病院薬剤師として就職後は、常に変化する医薬品情報を正しく評価し吟味して、個々の患者さんに対し、投与したら何が起こるのか予測しながら応用していく力を、今後養っていきたいと感じました。私達は卒業後様々な分野で活躍していきますが、各分野において薬剤師としての責任を果たしながら、さらに分野を超えた横のつながりを大切にして社会に貢献していきたいと強く感じた二日間でした。

最後に、今回このような貴重な素晴らしい機会を設けて下さった関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

このワークショップに参加するにあたり、どういう人が参加するのだろうと思っていました。実際に各大学の皆さんにお会いし、議論をしていく中で、とても薬剤師に対する意識が高いことに自分の愚かさを感じました。私も負けないようにしっかりとした目標を立てて頑張りたいと思いました。

今回特に印象深かったことが2点あります。1点目は、『他学部との交流』についての意見です。第一部の World Café で、他学部との交流を通して、自然とコミュニケーション能力を身につけることが出来たということを知りました。ここから自分から行動することの大切さを学び、私自身も自分から行動していこうと改めて思いました。2点目は、狭間先生の講演です。これからの薬局の様子を見せて頂き、そのように薬剤師も頑張れば、地位も自然に向上すると感じました。

最後に、今回のワークショップでも感じましたが、6年制課程は研究者になると考えている人にとっては、病院、薬局等の薬剤師養成のカリキュラムが多く、あまり良くないと考えます。研究者になりたい人のことも考えた、有意義なカリキュラムになることを期待しています。

今回は貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

私は「全ての根源は世の中をよりよくしていきたいという強い気持ち」に尽きるということをこのワークショップで学びました。ワークショップでは医療界において薬剤師の立場が低いことや、6年制教育への要望が多く出ていましたが、現実には薬剤師および薬学部は今まさに変わるべき「時」でありそれを変えていくのは将来薬剤師となる「私達自身」であるということに気付かされました。ただ受け身で現状に文句を言うのではなく、変えていくのは自分自身を含む薬学生や薬剤師であるということを多くの人に知って頂くように努力していく必要を感じました。このワークショップでそれに気づくきっかけに過ぎません。それを実際に行動に移す、つまり私達は同級生や後輩にこのことを伝えなければいけません。最後のまとめとして仰っていましたが、「薬学界の bottom up」を可能にするものはこれに尽きると思います。行政にただ単に文句を言うのではなく今を変えていきたいことを多数の人と共有してみんなで変えていくことが将来の目標です。最後にワークショップに参加させて頂いたことを大変感謝いたします。ありがとうございました。

今回のワークショップ(以下 WS)に参加し、全国の薬学生とお互いの考えを共有できたこと、その上で今後薬剤師が目指していくべき姿やそのために何ができるかを話し合えたことはとても貴重な経験になりました。その中でも、私が全国の薬学生との交流を通して最も強く疑問を抱いたのは6年制教育の在り方です。

6年制教育課程の導入には、文部科学省の中央教育審議会が示すように、「基礎的な知識・技術はもとより、豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、課題発見能力・問題解決能力、現場で通用する実践力を身につけることが求められている」といった背景があります。しかし、実際の教育カリキュラムでは、4年制教育課程から増えた2年間でどのように使われているでし

ようか。確かに、実務実習期間は伸びました。しかし、実務実習期間以外の約1年半について、従来の修士課程と同じ時間になったり、国家試験のための勉強時間だけになったりしては、社会的ニーズに対応する薬剤師は育たないのではないのでしょうか。

薬剤師が社会全体にその職能を還元し貢献していく上で、実務実習後の教育はとても重要な意味を持っていると思います。今回、全国の薬学生との交流を通して、研究や国家試験対策に追われるだけでなく、学生一人一人が自らの進路を選択する上で、フレキシブルな選択を得られるような教育の機会が必要なのではと強く感じました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました。この経験を糧に、薬剤師として社会に貢献できるよう日々研鑽を積みたいと思います。

グループ II C 櫻田 梨花

第3回全国学生ワークショップに参加し、大変有意義な時間を過ごすことができました。

私の県には県内に薬科系大学が一つしかないということもあり、今まで他大学の薬学生と情報交換や討議をする機会はありませんでした。今回のワークショップでは、カリキュラムや進路等において他大学との違いを知ることができ、同時に自分の大学の良い所にも改めて気が付くことができました。

今回、交流を持った学生の方々は、将来薬剤師になった時の目標やビジョンが明確であり、感銘を受け、私自身の将来の目標を考えるきっかけにもなりました。SGDで次々と出される提案の中でも特に感心し納得したのは、大学の授業に医学部・看護学部等の学生と合同で行うSGDなどを取り入れ、他学部生と討議する機会を設けるということです。学生の時からチーム医療を意識することで、就職してからもその経験が役立つと思いました。

ワークショップでは多くの学生と薬学や薬剤師について話し合い、刺激を受け視野が広がりました。このような価値のあるワークショップを今後も継続して欲しいと心より願っております。今回、貴重な機会を下さった日本薬学会ならびに関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

グループ II C 白石 彩奈

私は、今回のWSで、自分の意見を声に出して発言することの大切さを学びました。私は、SGDなどで話し合う際、自分の意見を持っていても積極的に発言するタイプではありませんでした。しかし、今回のWSでは、他の参加者が積極的に発言している姿に触発されて私も意見を言ってみました。すると、私の意見に対する賛成や反対の意見、自分とは違う観点の意見などを他の参加者から得ることができ、それにより、自分の考えを練り直し、更に深いものにすることができました。この経験から、自分の意見を発言することは、話し合いに貢献できるだけでなく、他の参加者の意見をふまえ、自分の考えの良い点、悪い点などを客観的に見ることができ、さらに考えを深めたり、新たな考えにつながるのだと実感しました。今後は、自分から積極的に発言していきたいと思います。

今回、2日間という短い時間でしたが、たくさんのことを学ぶことができました。また、薬学生として高い意識を持った他大学の学生と知り合うことができ、今後も交流していきたいと思える仲間ができたので、本当に参加して良かったと思います。次の機会があれば、ぜひ参加したいです。

まず初めに、今回このような貴重な場を設けていただき、主催の日本薬学会の皆様には感謝申し上げます。私は、今回このワークショップに参加できたことが本当に幸せだと思います。在学中に、友人と薬剤師の未来について議論した経験がありませんでした。しかし、参加した学生のほとんどが自身の将来に加えて、薬剤師としてどのように日本の医療に貢献できるのか考えていました。自分が医療に貢献なんて…と考えていましたが、「一緒に薬剤師の未来を変えようぜ」という友人達の言葉に励まされることで薬剤師として医療のためになることを積極的にやってみようと思いました。また、皆と会話することで自身の将来に対する考え方にも幅ができました。正直、たった一泊二日参加しただけで、ここまで刺激を受けるのかと感激しました。また来年参加できることを心待ちにしています。そして、今回皆様から学んだ事を胸に刻み、友人たちに置いてかれぬよう、日々精進していきたいと思います。

今回のワークショップ(以下 WS)に参加し、全国の薬学生とお互いの考えを共有できたこと、その上で今後薬剤師が目指していくべき姿やそのために何ができるかを話し合えたことはとても貴重な経験になりました。その中でも、私が全国の薬学生との交流を通して最も強く疑問を抱いたのは6年制教育の在り方です。

6年制教育課程の導入には、文部科学省の中央教育審議会が示すように、「基礎的な知識・技術はもとより、豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、課題発見能力・問題解決能力、現場で通用する実践力を身につけることが求められている」といった背景があります。しかし、実際の教育カリキュラムでは、4年制教育課程から増えた2年間でどのように使われているのでしょうか。確かに、実務実習期間は伸びました。しかし、実務実習期間以外の約1年半について、従来の修士課程と同じ時間になったり、国家試験のための勉強時間だけになったりしては、社会的ニーズに対応する薬剤師は育たないのではないのでしょうか。

学生間のみならず行政関係や特別講演の先生方など本当に多様な方々と意見や考え方を交換し、薬剤師の将来像や社会に果たすべき役割等について、普段の環境ではなかなか考えられないところまで深く考える事ができた実りある二日間でした。

その中で第二、三部の他グループの発表内容に「薬剤師として社会、医療に貢献するためには『適切な情報源から情報（エビデンス）を収集し、正しく評価できる科学者であること』」という旨の一節がありましたが、薬剤師が担う疫学研究の重要性について最近考えるところがあった私には個人的に強く印象に残りました。

もしこのワークショップ全体に対する改善点あるいは意見を述べさせて頂くとすれば、第二、三部の討議で得られた結果の内、特に現在の薬学教育に対する改善案等については内容を吟味した上で、実際に改善に向けてその案を実行に移せるような具体的な計画があっても良いのではないかとも思いました。

最後になりましたが、今回共にワークショップに臨んでくれたグループの皆さん、二日間を通し企画運営に尽力して下さった先生方、本当にありがとうございました。この経験を大切にしつつ今後私にできる薬剤師としての社会貢献を実践していきたいと思います。

熱い想いを持った薬学生同士の、二日間にわたるディスカッションは非常に刺激的だった。グループの中では、6年制薬学部の定員が増え、薬剤師数の増加が予測される中、現状に満足して日々の業務をこなしているだけでは、将来的に薬剤師として淘汰されてしまうという危機感を共有できた。また、私たちは一人ひとりが壮大な夢をもっているものの、実現への壁が大きく諦めがちである。しかし、薬剤師の地位向上のために全国の薬剤師が力を合わせて行けば、その目標の達成へと近づくことができるのではないかと感じた。私自身は、情報交換会で一期・二期の先輩方に励まされたことが大きかった。何がしたいか、どうなりたいのか、思い描くだけでなく、一歩前へ踏み出す勇気を持ち行動することが大事だとアドバイスしていただいた。6年制教育の成果を残して行くのは、他でもない自分たちなのだと思わされた。

今後は、地域に根差した薬剤師の在り方を考え、社会に貢献できるよう精進していきたい。そして、目指す薬剤師像や活躍するフィールドが違っていても、薬剤師という職業を通じて心をつなぐ仲間が全国にいるということを忘れずにいたい。

終わりに、今回このような機会を設けてくださったワークショップ実行委員会の方々、ならびに関係者の皆様に深く感謝致します。そして、一緒に参加したメンバーの皆様、ありがとうございました。

グループ IIIA 岡本 侑子

今回2日間の全国ワークショップに参加して貴重な経験ができたとともに、多くの刺激を受けました。最初にこのワークショップのお話を聞いたときは、自分で大丈夫かと不安がありましたが、なかなか普段接することのできない全国の薬学生と交流していく中で様々な話を聞くことができ、いつの間にかその不安もなくなっていました。

SGD や情報交換会を通して、大学間でカリキュラム等違いはあるものの、皆が共通して6年制薬学生及び薬剤師の質を向上させたいと思っていることがわかりました。また、1期生や2期生の先輩方からも、熱いお話を聞くことができ、大変勉強になりました。

今回ワークショップに参加して自分の視野の狭さを痛感したと同時に、このワークショップをもっと皆に知ってもらいたい、また、このような他大学との交流及び他学部との交流の機会が増えてほしいと実感しました。そのためにも、このワークショップで得たことを大学にフィードバックし、今後の薬剤師の発展のために少しでも貢献していきたいです。

最後に、第3回全国学生ワークショップを企画していただいた先生方及び参加された学生の皆さん貴重なお時間を提供して頂き心より感謝します。

グループ IIIA 佐野 賢太郎

今回のワークショップに参加させていただき、改めて、自分が薬剤師としてどう社会に貢献していきたいのかを考え直すことができました。多くの大学の参加者と接することで様々な意見に触れることができ、さらにタスクフォースの方々を含め議論ができたことは、大学の中だけでは決して味わえない貴重な体験となりました。この体験を、大学でも同級生や後輩に伝えていきたいと思います。

私たちの班では、「教育」というテーマを軸に議論を進めました。自主性の創造や適切な教育環境づくりなど、今まで考えたことのなかったことも提案され、充実した議論となりました。その中で、私は、実務実習をはじめ実際に6年制の教育を受けたものが、今後の薬学教育に貢献できる場面は多いと感じました。

今後、現場に出ると考えが変化することも多くあると思います。その時にまた、今回の仲間と集まり変わった点、変わらなかった点を議論し学生時代との意見の比較も行ってみたいと思います。最後に貴重な機会を与えてくださった、運営委員、タスクフォースの方々をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

グループ IIIA 嶋野 仁

この度は第三回全国学生ワークショップに参加させていただき有難うございました。本学より昨年度参加した先輩より大変興味深い会であることを伺っていましたが、期待以上に有意義な素晴らしい経験をすることができたことに大変満足しております。日本全国の同胞が一同に介し、様々な考えを共有し議論し合うという刺激的なワークショップはテーマの変遷はあるとしても、今後とも継続していただきたい企画であります。薬学教育が本格的に臨床への視点も持ち、基礎と臨床の融合へシフトし始めたのは1990年代中頃からと聞いていますが、その後の関係諸氏のご尽力により6年制という形で実を結んだ経緯に関して歴史を振り返るという形で改めて認識することは、現在あるいは将来の問題点解決の糸口にもなり得るものと思いました。ファルメディコ株式会社の狭間研至先生の御講演は特に印象深く拝聴いたしました。薬剤師ひいては薬学業界に理解のある医師のお話は、この上なく説得力がありました。配布された資料を何度も読み返すほどに味のある内容で、将来臨床現場での仕事を志望する自分自身のバイブルにしていきたいと思えます。

グループ IIIA 中島 直彦

僕は今回のワークショップのお話を教授から頂いたとき、素直に参加したいと思いました。全国各地から集まった学生と交流を持てるのは残り少ない学生生活、さらに社会に出て薬剤師として働いていく中で必ず良い刺激になると思ったからです。

実際に参加してみるとそれは僕の期待を大きく上回るものでした。参加している学生の意識の高さをディスカッションを通して肌で感じることができました。プロダクトを重ねる中で、今後自分たちが薬剤師として、一医療人として何ができどうあるべきなのか、そしてこれからの薬学教育をより良いものにするために自分たちに何ができるのか、これまでの学生生活では考えもしなかったような深いところまで突き詰めることができました。特別講演をしてくださった花井さん、狭間先生のお話も自分の視野の狭さを痛感させられるものでした。特に狭間先生のお話は、自分の将来について改めて考えさせられるものでした。今後はこの経験を糧として、よりよい医療人、社会人となれるよう努力し続けたいと思います。

最後に、第三回全国学生ワークショップを開催し、貴重な経験を得る機会を与えてくださった関係者のみなさんに、深く御礼申し上げます。

グループ IIIA 東本 祐佳

この度はワークショップに参加させていただけてすごくうれしく思っています。全国各地の大学の薬学生が、それぞれの場所で授業や実務実習を経験して、そこで得た考えや気づいた問題、未来の理想について、すごく真剣に伝えようとしてくれる、すごく真剣に聞いてくれる場は、とても刺激になりました。プログラムを通じて、自分と同じようなところに問題を感じている仲間が全国にいることを知り、そこで一緒にできることを考えたことで、「こうなったらいいのになぁ」と思っていたことを、自分たちの行動1つ1つの積み重ねで「変える」という意識を持たなければいけないと気づかされました。

卒業生の方や、講演に来てくださった先生方も、これからの薬剤師に期待を持って、それを私たちに伝えに来てくださったのがすごくわかりました。

最後に、参加者全員がほぼ初対面という状況で、お互いに忌憚なく意見を言い合えるような、プログラムの準備や空気づくりをしてくださった先生方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

グループ IIIA 水野 翔童

本ワークショップ (WS) で多くの薬学部の皆様と活発なディスカッション、意見交換、交流をもつことができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。私が WS を通して印象に感じたことは、参加者の皆様が共通して「今後の薬学・薬剤師の社会貢献について」さらには「日本の医療」に対して真剣に考え、より良いものに変えたいという熱意をもって WS に参加なさっていた点だ。このことは、班ごとのグループワークで顕著に感じた。6年制薬学教育も我々で3期目だが、依然として実習指導内容の施設、地域格差が存在する。それを改善するために我々には何が必要か？今後どのように行動すべきか？難しい話は報告書を参照していただけたらいいかと思うので割愛するが...

要するに我々は6年間の薬学教育を受けたものとして何事に対しても主体的に積極的に行動することが最も重要であること。またその学んだ知識・技術・情報を後進の皆様方に伝えて行くことが、今後の薬学教育・薬剤師育成をより良いものにすること。その責任を負っていることが自覚できた。

本当にたった1泊2日で出会ったメンバーだったのだろうか？今でもその結束力の高さを忘れずにはられない。このWSで出会えた素晴らしい仲間達、先輩方、先生方に感謝すると同時に、皆様と共により良い日本の医療を作りたい思いを記して以上を印象記とさせて頂きたい。

グループ IIIA 安本 ひかり

ワークショップ終了後、私は昨年度の実習日誌を読み返しました。そこには、薬剤師の方やほかの医療従事者の方、そして、患者さんやそのご家族との大切な出会いがあり、そのひとつひとつを思い出して「もっと頑張ろう！」と、気持ちを新たにすることができました。

このたび、ワークショップに参加させていただいたことで、私は、私自身の学生生活がずっと「出会い」に支えられてきたと改めて感じるすることができました。この6年分の出会いがあったからこそ、「命にかかわる」ということをしっかりと噛みしめ、「私はなにも知らなかった」と、恥

じながら学んでくることができたと思うのです。

命を与えるだけでなく命を奪う可能性も持ち合わせているのが薬であり、その薬についての学びを6年かけて修めた者として私たちは歩んでいくことになります。私たちを待ち受ける現実には厳しいものですが、私たちが志を立てることができるのは、6年間の出会いがあってこそだということをお忘れずにいたいと強く思いました。

誰のため、何のための薬学なのかということをお教えたくださった6年間の全ての出会いに感謝して、研鑽を積み続けていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

グループ III B 大淵 絢子

今回の薬学生WSでは、これからの薬剤師としてどのようにしていかなければいけないかということをお、参加者の皆さんがそれぞれに問題意識を持っていることにとっても驚いた。

私は家庭のある身で大学に通っているお、あまり深く考えたことはなかったが、今回のWSに参加して、私自身がお登録販売者、医療事務として働いていた時に、薬剤師にこのようなことまで知識を拡充してもらえたらいいのに、、とお思っていたことを話すことで、自分自身のこれからの薬剤師像というものがお明確化されたように思う。参加者の皆さんとディベートすることで、これからの薬剤師には課題がおたくさんあるが、各人がそれぞれの職域でやるべきことを行うことで、より質の高い薬剤師がお形成されていくのではないかと感じた。私自身としては、6年生薬学部として大学で学んできたことを生かし、これから薬剤師として活躍していき、薬剤師というツールを使い、様々な人に発信していける人間となり、社会貢献できるよう努力していきたくお強く感じた。

最後に、このような貴重な機会をお与えてくださった日本薬学会の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

グループ III B 坂口 佑一郎

教授から「大学から一人行って欲しいから、(学部長との懇談会などに参加して)声を掛けやすい君から打診することにした」と呼ばれ、私は百パーセント興味本意でおこのワークショップに参加した。意識もおそこまで強くないので、他の大学生はおどう考えて薬学部で学んでいるのかをお知りたかったのが、モチベーションになった。

いざ参加してみると、現役の大学生どころか社会人から再度大学に通い始めた方までおり、実際に医療や薬局をお経験している方の「現場を踏まえた意見」に、大きく刺激をお受けた。また、都会における薬局実習の様子は聞いていて興味深いもので、長崎とお大きく事情の違う環境での実習は面白そうだった。

一方で、今回のテーマのせいもあるのだけれお、地方の薬局状況など知らない、おと言う人も多いようだった。個人的には「薬局にはどうせ4～5人いるんだし1人ぐらいい地域の啓発活動に回っても問題なく回るでしょう」という意見がお出たのが意外なぐらいいだったが、知らなければ無理もないのかもしれない。

特に印象的だったのは、研究にお重きを置いている六年生とお出会えたことだ。自分はおどちらかおと言うとお研究におのめり込んでいない人間であり、生き生きとお研究の面白さをお感じ取っている彼らが、

羨ましかった。自分だけでなく、同じ六年制教育を受けてきた他の視点からの意見から得たものは大きかったと思う。来て良かった、と心から思えた。

グループ III B 杉山 絢一

1泊2日が非常に短いと感じてしまう程、今回参加させて頂いたワークショップでは非常に濃い時間を過ごさせて頂き、また全国の薬学生と議論をする事で地域により生じる問題点を知る事ができました。

今回は「薬剤師が社会、医療に将来どのように貢献して行くべきか」というテーマについて議論を行いました。議論を通し薬剤師が今まで以上に発信を行っていく必要があると感じました。発信について私はなんでもいいと思っております。例えば、お薬を服用中に一緒に食べてはダメな食べ物や飲み物、副作用が発現したらどうしたら良いのかといったような小さな情報発信も地域に伝えて行く事で薬剤師の仕事をより知ってもらえ、より薬剤師を利用して頂くのには大切な事ではないかと思いました。

今日、在宅医療の推進が国を主体として行われており、患者の療養場所が病院から自宅へと移行しています。つまり薬剤師も町医者と同様に町薬剤師として今まで以上に地域に密着した薬剤師の必要性が生じてくるのではないかと今回のワークショップを通し感じました。

最後に全国の薬学生と共に語り合う場へ参加させて頂く機会を与えてくださいました日本薬学会様に深く御礼を申し上げます。

グループ III B 中曾根 正皓

今回ワークショップに参加させていただき、自分にとって大変良い刺激になったと感じています。議論の内容云々というよりも、どの大学の薬学生の方もそれぞれが自分の考えを持ち、しっかりと主張できるという点が驚きで、議論の中で私は始終圧倒されっぱなしでした。今回、自分の意識の高さや知識がまだまだ未熟であることを痛感したことで、今後の研鑽のモチベーションにつながりました。また、大変参考になる意見も多かったと思います。

最終日のあいさつでもあったように、「チーム薬剤師」として、我々が一丸となり、薬剤師のこれからのために働きかけを行っていかねばならないと思います。今回のワークショップで同じ薬学部の仲間たちと知り合い、議論することで、それぞれ考え方は違っていても、薬剤師として患者さんの健康や社会に貢献していきたいという思いは同じであると感じました。同じ志を持つ素晴らしい仲間との出会えたことが一番の収穫であり、今後もこのような機会があればぜひ参加したいです。

グループ III B 中谷 静香

この度は、第3回全国学生ワークショップに参加させて頂き有難う御座います。初めて会う人達と1泊するという事で、少し抵抗を感じながら始まった1日目でしたが、終わってみるととても短く、もっと色々な話をしたかったというのが正直な感想です。

今回のワークショップで全国の学生と討論し、わずかでも互いの価値観を共有することができたこの2日間はとても良い刺激に溢れていて、自大学に居ただけでは分からないことを感じるこ

とができました。今後の自身の活動に生かしていきたいと考えています。このワークショップは全国規模だからこそ、ここまで有意義な時間を作れたのだと思います。どこの地域・大学が欠けていても成り立たちません。ご遠路はるばる東京までご足労頂きました学生・タスクフォースの皆様、本当にありがとうございました。全国から学生が集まり、それぞれの環境で育てられた様々な価値観で討論出来るこの素晴らしい場を是非、後輩達の為に第4回・5回…と続けて頂ければと思います。

末尾になりましたが、今回第3回全国学生ワークショップを開催するに当たりご尽力下さりました皆様に心より感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

グループ III B 西村 誠晃

この度は、このような貴重な会に参加させて頂き有難うございます。全国の薬学生に加え、1期生・2期生の先輩方とも討論させて頂いたことで様々な想いに触れることが出来、とても良い刺激になりました。

この度のワークショップで強く印象に残った事は、実務実習で受けることが出来る教育の深さや環境には、大変地域差があるということです。以前から感じてはいましたが、この2日間で「処方設計に関わった」、「深く学びたい内容を満足に学べなかった（OTC薬の事など）」、「患者さんとあまり話すことが出来なかった」など、ポジティブなものからネガティブなものまで幅広い話を聞くことが出来ました。こういった地域差や教育のばらつきは今後無くなっていくことが望ましいですが、教育のばらつきはそこでしか学べない環境があるということの裏返しのように感じました。私は今回のワークショップで、自分の置かれた環境を理解し、その環境で前向きに学ぼうとする姿勢が最も重要であると思えるようになり、今後生涯学習をしていく上での心構えが出来ました。

最後に、この度このような会を開いてくださった日本薬学会の先生方ならびに各大学の先生方、6年制薬学部先輩方、関係者各位の皆様には深く御礼申し上げます。

グループ III B 福田 葉月

私は、今回の学生ワークショップに参加し、多くのことを学びました。始まるまでは、全国からたくさんの学生が集まるということでたくさんの不安を抱えていました。しかし、その不安もすぐに取り除くことができ、たくさんの刺激を受けることのできた有意義な2日間になりました。

同じ薬学部でも、大学で違う色をもっていること、同じ薬学生でも違う将来、違う目標を持ち、違う大学生活を送っていることを知り、自分のこれまでの大学生活を振り返る良いきっかけとなりました。また、将来どのような薬剤師になりたいのか改めて考えることができ、今回の議論のテーマにもなっていた社会貢献・医療貢献について、自分に何が出来るのかきちんと考えるようになりました。

また、今回のワークショップで、6年生薬学教育にはたくさんの課題があることを知りました。様々な議論を通して、その課題が少しずつでも解決され、充実した教育になることを願っています。大学生活もあと少しですが、今回のワークショップで感じ取ったことを大切に、充実したものになりたいと思います。そして、将来、薬剤師として社会に貢献できる人材になりたいです。

グループ III B 松岡 由紀

第3回全国薬学生ワークショップに参加したことは、私にとって非常に有意義なものとなった。参加者全員が学生で、また話しやすい参加者が多かったため、すぐに輪に溶け込み、多くの薬学生と交流することが出来た。様々な価値観を知ることが出来た一方で、大学の教育の差や、地域差があることに気付いた。

6年制教育を受けた私達は、今後どう行動していけばよいのか。「薬剤師として、社会・医療に貢献するために」というテーマで、非常に白熱したディスカッションが行われた。それだけ意識が高い学生が集まっていた。6年間学んできた中で、私達は実習が大きな事だと感じていた。実際に臨床の場に出向くことで、不足している知識や技術が沢山あると感じた学生が多かった。そして、私達薬学生の「声」が現在の薬学界に少しでも届くのならば、影響するのであれば、今後もこのような会を続けていく価値はあると思った。大学外の交流を求めている声が多かった。また、今回で終わりというわけではなく、今回をスタート地点として、薬剤師として今後活動していく仲間とともに協力しあっていきたい。

グループ III C 青木 傳

「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」をテーマに各大学6年生や卒業生と議論を重ねることができ、大変有意義なものとなりました。6年制薬剤師として、社会や医療にどのように貢献するか漠然とした疑問を持ちながら、この6年間を過ごしてきたような気がします。

今回、このようなワークショップを開催していただき、私は『責任』を持って行動することが重要であると考えました。6年制薬学教育を受けた私たち一人一人がそれぞれのフィールドで医療人として意識を持って、様々な情報を評価・判断して行く必要があります。その判断には責任が伴います。これからは予防医療や介護などにおいても薬剤師の役割が、非常に重要になってくると思います。薬剤師としての専門性を活かし、判断を迫られることも多くなると考えられます。その際に適切な臨床判断ができるように、病態や薬の知識は元より、患者情報の収集や対処能力を磨いていこうと思いました。

最後に、このような素晴らしいワークショップを開催していただきまして、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、今後もこのようなワークショップを多くの学生が経験できることを望みます。

グループ III C 飯塚 康人

充実した2日間を物語る言葉がある。「今回のような催しを定期的に関催できたらいいな。」SGDの中でも挙げた意見であるが、私も賛成である。多様性をうまく生かし、ワークショップのメンバーのネットワークで情報交換を続けることができたらとても有益だと思う。今回をきっかけに今後とも機会をみつけて情報交換をしていきたい。ワークショップを通じて全国の薬学生と触れ合うことにより、勉強へのモチベーションがかなり上がった。特に在宅医療とセルフメディケーションのトピックについては今後とも自分で勉強していかなければならないと感じている。「薬剤師として社会、医療に貢献するために」というテーマのおかげで学生それぞれの将来の展望や目

指している薬剤師像を聞くことができた。同じ薬剤師という職種でも活躍するフィールドは多様であることを実感した。多様性に触れることで自分のアンテナもグイグイ伸びたように思う。卒業後の進路は様々なので、卒業後にまたどこかで再会できるのが楽しみである。

グループ III C 日原 章詔

全国学生ワークショップに参加させていただきました。他大学の薬学生との討論や会話していると、皆しっかりと自分の意見を持ち、薬学に対する意識も高いことに驚きました。それぞれの意見を聞くことで自分の視野も広がり、とても有意義な時間を過ごせました。

面白かったのは第一部のセッションで、薬学部に進学した目的を聞くと、資格や給料などで進学を決意した人が多くいたことでした。最初は同じような理由で進学しても、早期体験実習や普段の授業、実務実習などを切掛けとし、それぞれが自分の道を見つけ、それを目指す中で薬剤師というものに対してさまざまな考え方を持っているのだと改めて実感しました。病院志望や薬局志望、研究職やMRなど目指すところが違えば見方も変わりますが、それぞれの意見を聞くことで自分も周りも更に成長できると思いました。

今回のワークショップに参加し全国の学生と話す機会を得て、いろいろな人の話を聞くことは本当にいい刺激になると思いました。今後は6年時だけではなくもっと早い段階でこのようなワークショップの開催や、全国でなくとも地域ごとの開催等ができればいいと思いました。

グループ III C 堀之内 渉

私の想定では、この会では学生同士が薬学教育に対する問題点を話し合い、出た案を文科省役員や各教授に提案するのかと思っていました。しかし実際は問題点を考慮しつつ今後の薬剤師像についての話し合いがメインで、最終的に挟間社長の意見を聞くというものでした。印象としては、1日目2日目ともに挟間社長の意見に誘導するための作戦だったように思います。

というのはグループ内で今後の話をすると根拠やロジック、具体性のない理想の話になってしまったように感じたからです。理由は背景知識が少なかったからだと思えます。したがって挟間社長の話は非常に価値はありましたが、これを少し前のコンテンツで聞いてから、あるいは薬剤師をとりまく環境について勉強会をした後に、グループで話し合いをしたかったです。

この会のおかげで、これからつながりを強めていくべき熱い仲間たち、年上の方々と出会え、仲良くなれました。年上の方々が自分たちのように「どうにかもっと薬学領域をよくしたい」という熱意があり行動している姿は非常に印象的でした。非常に有意義な時間でした。これからも相互に交流して行こうと思えます。誠にありがとうございました。

グループ III C 三浦 広美

この2日間のワークショップは私にとってとても貴重な時間となりました。全国各地のさまざまな大学から学生が集い、意見交換する機会というのは簡単にはできないことです。そのような貴重な機会を私達に与えて下さったことに本当に感謝しています。

ワークショップで一番印象に残っていることは、もっと他の学部との交流を増やしたいという意見が多かったことです。私の大学は単科大学ということもあり他の学部との交流がほとんども

てていないと感じます。だからこそ視野が狭くなりがちではないかと考えていました。今回のワークショップでは色々な意見やアイデアが出てきましたが、去年、一昨年の先輩方の意見も含め、話し合いの中で生まれたアイデアが今後の薬学教育や後輩達に還元されていってほしいと強く思います。

ワークショップを通して多くの刺激を受けました。このような体験をもっと沢山の学生にして欲しいと感じます。最近は SNS などでも友人や周りをつながることができますが、それらも活用し今後も今回の学生同士のつながりを続けていきたいと感じましたし、新たなつながりを学生の力でも広げていきたいと思いました。

グループ III C 湯澤 薫

他大学の方々と活発に討議することができ、大変貴重な体験となりました。とても嬉しかったこととして、薬学教育をさらによいものにしようという熱意を薬学生皆がもっているということでした。大学で学んできた知識をさらに現場で活かすためには、まだまだ実地教育が不足しており、さらなる自己研鑽に加え、今まで常識とされていたことやその意識を変えていく必要があります。狭間研至先生もおっしゃっていたように、『薬剤師は処方「解析」から患者の「謎解き」へ』係わることが求められる時代になってきています。患者さんの病態から、薬剤師の武器である薬物動態や薬理などの知識を活かしてチームに貢献していく。それが当たり前になれる環境を作るためにも、このワークショップで話し合ったことを私達で実現していきたいと思いました。今回のワークショップで得た繋がりを大切に、今後も努力していきたいと思います。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった諸先生方に心より感謝申し上げます。

グループ III C 和田 智子

私はこの2日間、大変大きな収穫を得ることができました。今回のようなWSで他大学の学生と討議し、今まで自分が考えることのなかった意見など様々な意見を聞くことができ、これまでの自分の視野と考え方の狭さに気付くことができました。

病院薬剤師を選んだ私にとって、今回の討論は非常によいものでした。特に印象に残ったのは、第三部の『薬剤師として社会、医療に貢献するために私たちが取り組んでいくこと』の話し合いで出た「薬剤師は勉強に逃げてはいけない」という意見でした。今まで私は勉強することはとても大切だと思い込んでおり、実習などでも自分が至らないと思う事があるとまず勉強に逃げておりました。今回の意見を聞いて、私の考えは良い意味で崩されました。また、World Café や KJ 法を用いたグループワークを今までしたことがなかったのでこんなにも容易に情報を収集・整理・交換する方法があるのかと感銘を受けました。今回学んだことは今回で留まることなく、学校に帰ってからも広めていきたいと思います。

最後になりましたが、今回のような貴重な機会を設けて頂いた WS 関係者の方々、そして WS で出会った仲間に感謝申し上げます。

グループ IV (1期生) 嶋田 光希

一期生として全国ワークショップに参加してから早二年。久しぶりに同期生で「6年制薬学教育」というテーマについて話し合う機会はとても貴重でした。二年前からは、良い意味でも、悪い意味でも社会人として働く中で意識は変わってきました。特にこの回に参加して気づいたのが、MRとして働く今、薬学教育を考え、「発信する」という意識が薄れてしまったと言う事です。仕事の立場上という言い訳をしたくはないのですが、医療関係者の方々と仕事をする中で、現場を肌で感じる理想と現実のギャップに対して、「薬剤師」として関わる自分を抑えていたように思います。しかし、社会人として働いていく中で、新たな発想も生まれてきています。以前は、大きい発信ばかりを意識するだけでしたが、普段からコツコツ行える小さい発信を繰り返すという重要性に気づかされました。自らが行える範囲のことを身近な人に発信していくことが、少しずつ周りの方の認識を変化させていくことができると。ワークショップで得た経験を活かして、MRとしてだけでなく「薬剤師」としてこれからも薬剤師の発展に寄与できるよう、精進して参りたいと思います。

最後になりますが、今回このような機会を設けて下さった関係者の皆様に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

グループ IV (1期生) 間 祐太郎

目指すべき薬剤師像とは、その薬剤師像に近づくために必要なスキルとは、またそのスキルを活用することでいかに医療・社会に貢献していくのか、薬剤師・薬学生が常々考えを巡らせなくてはならないことである。

このWSに参加して3回目ではあるが、現役6年生と卒業生がいろいろな想いと高い志しを持っていることを改めて知ることは、大学で研究生活を送る私にとって、薬剤師としてのモチベーションを高く保つために大変有意義な機会である。しかし、WSの回を重ねても現役6年生から挙がる、臨床・研究・教育に関する課題はさほど代わり映えのないように感じた。これは、良く言えば6年制薬学教育を受けた最終学年の皆が同じ方向を向くことが出来ていると言える。一方で悪く言えば、毎回挙がる課題をクリア出来ていないととれる。なかには薬剤師の職域拡大や政策・制度など長期的なスパンで作りに上げていく必要があるものもあるが、長期実務実習での実習内容の均一化など教育に関しては、学生本人の意識でどうなるものも多く見かける。このようなWSは、自己批判をする良い機会だと思う。つまり、環境・制度をどう変えていくかだけでなく、与えられた条件の中でいかにそれを有効に活用していくか、意識改革を行うことも必要なことである。

今一度、自分の置かれている環境や立場を見直して、自己研鑽に努め、社会・医療に貢献できる薬剤師像を模索していきたい。

グループ IV (1期生) 横山 正人

今回の第3回全国学生ワークショップにおいて、一期生一同から「みんなで一致団結して、情報を発信しよう！」というメッセージを贈らせていただいた。この言葉は私自身への戒めの言葉でもある。

一昨年、昨年とこのワークショップに参加させていただき、志を共にする仲間達から多くの刺激を受けて今の自分があるが、この貴重な経験を周囲の人々に伝えていく努力をしていなかった。参加したことに満足し、一部の友人に熱っぽく語っていただけだったと反省している。まずは身近なところからでも、ワークショップ参加者の熱い想いを拡げていかなければと痛感した今年のワークショップであった。

後輩へ。我々は出身大学や就職先、卒業年度が違ってても皆が「チーム薬剤師」です。共に成長していきましょう。

一期生の仲間達へ。「一生一期生」の私たちにしか感じられないこと、伝えられないことを、それぞれの場所で発信していきましょう。

最後になりましたが、今年もこの全国学生ワークショップ開催にご尽力いただきました関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

グループ IV (1期生) 吉田 啓太郎

お陰様で、全国学生ワークショップに参加させて頂いたのも今回で3回目となった。第1回目は情熱を、第2回目は1期生の絆をそれぞれ持ち帰った様に思える。第3回目は、6年生の時や卒業5ヶ月後の時とは異なる視線を、私自身で養っていた事を実感した。そして、1期生として言うべきか6年制の集まりの最年長として言うべきか、私たちの後を継ぎ、それぞれの分野において活躍し、仲間ともライバルとも言えるような者達の先駆者として、人としても薬剤師としても成長していかなければならないと痛感した。

ゆとり世代や6年制世代と様々な新しい付加のある私たちではあるが、1期生から3期生までそれぞれが大きく熱い志を持っており、「6年制」を意味あるものにしていけると思った。ワークショップに参加した面々は特徴的な個を持っているので、現実的に取り組む事が可能かつ、見失わない程度のある一定以上の大きさのある目標を設定し、その目標に対して一丸となって進むことが出来れば、勢いのある集団となれるだろう。目標を見据える、もしくは集団を結成するためにも私たち1期生は、成長し続ける必要がある。

グループ IV (1期生) 渡邊 なお子

今回で3回目のワークショップへの参加。1回目は学生として、2回目は社会人1年目でまだ薬剤師として歩み出したばかりの頃、そして3回目は薬剤師として歩み出して約1年半経ち、少しずつ仕事を覚えて「薬剤師」が楽しくなっている現在。その時々で6年制教育を振り返ることができ、このような貴重な機会を与えていただけていることに感謝しています。

今回は仕事の都合で短時間の参加となってしまいましたが、社会人2年目として現役6年生と、社会人1年目の立場での考えを聞いて、今後、一社会人として、6年制薬学教育にどのように関わって行きたいか、ということを改めて考える機会となりました。病院で勤務する中で、実習生に関わる機会もあり、まずは実習生に少しでも夢や希望をもってもらえるように接していきたいと考えています。「薬剤師」として歩み出す時はしっかりと地に足をつけて歩んでほしい、そして、私自身もそうありたいと思います。仕事を始めて、患者様から「ありがとう」と言われる嬉しさを知りました。その嬉しさを「薬剤師」として成長する中で、後輩たちへも伝えていきたいと思います。

私にとって、1年前のワークショップは薬剤師としての初心の象徴です。「社会に出る前の学生の思いは単なる理想に過ぎなくても、理想からかけ離れた現実を甘んじて受け入れる薬剤師にはなりたくない。社会に出てどんな現実を知っても、理想に近づく努力をし続けるために今の気持ちを初心として忘れずにいたい。」と、あの日、同期と意見をぶつけ合っただけで心に決めたからです。

あの日から1年経ち、今回も多く気付きが得られた一方、前回と少し違うものを感じたのも事実です。初心を忘れていないと思っていた私にとって、違いを感じた原因は何か、その違いが良いものなのか悪いものなのかを知るために、できることなら先輩や後輩とも様々な議題でもっと意見をぶつけ合っただけで良かった、今の自分だから伝えられることを伝えておきたかった、ということだけが心残りではありますが、課題をいただいたと思って次回につなげたいと思います。

1年前、立ち止まり、自分と向き合う機会や、共に考えてくれるかけがえのない仲間との出会いを与えていただいたワークショップに、半日ではありますが、今年も参加させていただくことができましたことを嬉しく思うとともに、心から感謝申し上げます。これからも初心を大切に、そして機会や出会いを与えてもらうだけの立場から卒業して、私も早く後輩に何かを感じてもらえることを企画できるようになりたいです。

後半1日でしたが、1年前に語り合った仲間とこうやって白熱した議論ができて本当に刺激的な1日でした。1年前は全員学生だった2期生が、約半年ではありますが、新しい世界に飛び込み、十人十色な経験をして帰ってきた、その中で化学反応は、1年前よりも中身が詰まっていた現実的だなと感じました。薬学に限らず世の中にはおかしなことがたくさんありますが、否定的なことばかり見ず、その中からどうしたら良くできるのか、自分はどのようにしたらいいかと前向きに考えていけば、必ず道は開けると信じています。今の私には背伸びしすぎなんじゃないかな？とか、目の前のこともできてないのに・・・とか、そんなことは考えず、思い立ったが吉日！！

3期生にもそんなパワーを持ってこれから医療人として歩いて行ってほしいです。もちろん私も、もっともっとパワーアップしていきます！！ありがとうございました。

WSに参加したことで得られた気付きは多岐に渡り、考えさせられる点がいくつもあった。社会経験は浅いものの薬剤師として社会に出て働くという新たな視点に重点を置き、多様な職種に進んだ立場から「後輩たちに何を伝えられるか」を念頭において議論を進めることで、以前に比べより地に足をつけたWSとなった。一方で、今回の大きなテーマである「薬剤師として社会・医療に貢献するために私たちが取り組んでゆくこと」は6年制薬学教育が成熟してから議論すべき内容であり、もう少し6年制教育の意義を考える議論の必要性を感じた。加えて、私たちが同じ内容で議論し3期生にプレゼンすることで、議論の広がりを抑えてしまうのではないかという不安もあった。最終日の総合討論でもその雰囲気は垣間見えており、1・2期生に対する質問が目立ったように思われた。3期生にとって本当の意味で尊い経験が得られたのだろうかという懸念が残る。

WS 終了後も 2 期生同士で議論を続けたが、私たち自身が行動することで後輩たちに背中を見せつつ理想の薬学社会を体現する必要性を強く感じた。社会・医療への貢献は、常に考えなければならない重要な議題であり、日々の仕事の中で体現しなければならないと志を新たにす貴重な機会となった。末筆ではありますが、このような機会を与えて下さった日本薬学会と関係者各位の皆様に感謝致します。

グループ IV (2 期生) 黒岩 亮平

昨年に引き続きこのワークショップに参加させていただいたことに感謝します。そして、ワークショップの運営に携わって尽力いただいた先生方に御礼申し上げます。

今年は違ったテーマで仲間達と熱い議論を交わすことができました。昨年のテーマは、「6 年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」でした。各セッションを経て他大学の特色を知り、6 年制薬学教育の問題点を話し合うことができました。そして、行政や実習先、大学側に望むことを主張し、個人として今後取り組んでいくことの意味表明をしました。

今回のテーマは、“薬剤師としての貢献”であり、少し難しいテーマに思えました。何が社会や医療に対して役立つことなのでしょう？自分のやりたい事と社会の期待とをイコールで結ぶためにはどうすればいいのでしょうか？そのためには、社会を深く知ることが必要でしょう。6 年制薬学教育において、4 年制時に比べて増えた時間で、社会をより知ることができると考えます。三期生の皆さんには、そうした上で“社会からの期待が自分のやりたい事”と言えるような薬剤師を目指して行って欲しいです。私もその途中です。一緒に頑張っていきましょう!!!

グループ IV (2 期生) 小嶋 崇弘

二期生としてWSに参加し、みんな熱い思いを持ったメンバーが多くて、刺激を受けるいい機会であったと心の底から感じる。お互いに卒業し、様々な職に就いており、それぞれの経験や不安など自分にはないものを共有できるのは本当によい財産になった。また、現役生との関わりを通して、自分たちの経験を少しでも伝えることができたと感じた。是非残りの学生生活に生かしていってもらえたらと思う。薬剤師は今後様々な職種との連携が求められている。しかしながら、このWSを通して同じ薬剤師でもお互いに知らないことが思った以上に多いと感じた。新しい視点で、薬剤師の仕事を知り、自分の行動を見つめなおすよい機会となった。講演でもあった、「薬は不完全な商品である」という言葉が自分の中に響いている。逆にいえば、不完全だからこそ価値があるととっても良い。WSという繋がりを通して、自分たちが今やれることを考え、小さいことから少しずつ取り組んでいくことの重要性と行動していく責任を感じた。このメンバーを中心に薬学会、そして医療に変革の波を起こしていきたい。

グループ IV (2 期生) 小林 絢子

薬剤師免許を取得し、社会人となった今、昨年とは違った視点から今後の薬学部、薬剤師の未来について考える良い機会となりました。

1 期生、2 期生ともに薬を通して様々なフィールドで薬剤師として活躍しており、6 年制となったことで薬剤師の仕事に多様性が出てきているのではないかと思います。研究、開発、MR、政治、

薬局、病院等々、ひとつの薬が患者さんの手に渡るまでの全ての過程で薬剤師が関わっていることは医療の安全、安心を作り上げるひとつの要素になり得ます。現在、モニターとして臨床開発に関わる上でも、半年近くに渡る病院、薬局での実習の経験が大きな財産となっており、薬学の知識だけでなく現場の目線、患者さんの意見を直に学ぶことのできる6年制薬学部はこれからの社会に非常に貢献できるのではないかと思います。今後、私は薬剤師として臨床開発に携わりつつ、6年制卒の薬剤師だからこそできる医療へのアプローチをもって6年制薬学部を意義あるものに作り上げていきたいです。

グループ IV (2期生) 相良 篤信

日本薬学会第3回全国学生ワークショップに2期生として参加させていただきありがとうございました。今回のテーマは「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」ということで全国の6年生及び1,2期生もプロダクト作成に関わらせていただきました。「貢献」という大きなテーマのもと議論することは正直私たちにとって非常に難題でありました。6年制薬学教育を受けた学生は薬剤師に限らず様々な進路に進んでおり、討論を通してその貢献へのアプローチの方法も多様であると感じたためです。ただ薬剤師免許をいただいたことには変わりなく目指す目標は「社会貢献」であることを再度共通認識させていただきました。

第3回ワークショップでは第1,2回と大きくテーマが異なり「6年制薬学教育」の内容についてほとんど6年生間で議論されていないことが昨年と比較して感じました。6年制薬学教育について問題点は多く残されているはずですが、その問題点について現役の6年生が一番近くで感じていると全体討論の中でも発表がありました。全国から6年生が集まるワークショップは大変貴重ですので6年制薬学教育にも焦点をあてた議論も引き続き必要であると感じました。

最後に卒業生にも貴重な機会を与えて下さった日本薬学会の先生方に深く御礼申し上げます。

グループ IV (2期生) 志田 拓頭

今回のワークショップでは私たちも3期生と同じように議論を行わせて頂きました。その中で個人的に印象的だったのが、副作用報告に関する話題です。企業に就職した同期と副作用報告の取り扱われ方について話すことができ、それがどのように添付文書改訂などにつながるのかが分かりました。こういった、就職・進学後だからこそ話せることを議論できたのは、卒業生のワークショップならではの魅力だったと思います。

第1回・第2回のワークショップのテーマが「6年制」だったのに対し、今回のテーマは「貢献」でした。3期生の議論の様子をあまり見られなかったのは残念でしたが(この報告書の中でその様子を読めることを楽しみにしています)、単にどのような教育を受けたいか・どのような薬剤師になりたいかといったことに留まらず、その上でどう患者や社会に貢献していくかという議論ができたのならば素晴らしいのではないかと思います。

一点だけ問題提起を。今回、いくつかの班が、他学部(例えば医学・看護)との交流をしたいと話していました。交流によって得られるものは多いでしょうから、これは素晴らしいことだと思います。しかし、交流するからには互いにWin-Winの関係でなくてはなりません。では、他学部との交流によって、逆に薬学生が相手に与えられるものは何でしょうか。…次の機会には、ぜひこ

のことについて話してみたいなあと思っています。

最後になりましたが、このワークショップが今後も続いていくことを願っています。運営してくださった先生方、一緒に2日間を過ごした仲間感謝します。

グループ IV (2期生) 武永 理佐

今回のWSに参加して強く感じたことは、どんな道に進んで、どんな仕事をしていようとも、自分は「薬剤師」であるという実感です。今年のWSへのお誘いを受けた当初、参加しようかどうかとも迷いました。病院や薬局で働く薬剤師とは別の道に進んだ自分が参加する意義はあるのか、場違いではないか、という思いがありました。しかしざざディスカッションを行い、講演を聞くうちに、自分の視野がとても狭くなっていたことに気が付きました。現在は製薬会社の安全性管理職という、薬剤師免許を必要としない仕事に就いていますが、それでも「6年制薬学教育を受けた薬剤師」という肩書はこの先ずっと変わらないことに改めて気付かされました。さらに、去年のWSで知り合ったたくさんの同期とも、「薬剤師」という共通項で繋がっていることを改めて実感しました。薬剤師として卒業した同期は皆、病院、薬局、ドラッグストア、研究開発、大学院等様々な道で活躍し、それぞれの職場や大学で現状をより良くするために考え、実行に移しています。私はそんな同期と、場所は違えど共に働いている意識を持って、製薬会社で働く一薬剤師として出来る事を考え続けたいと思っています。

グループ IV (2期生) 山本 天心

卒業生として参加した今年のワークショップは、昨年と同じく大変難しい内容をテーマとしており、苦戦したけれども議論する価値があるものだったと思います。参加した卒業生は、薬剤師として勤務している者もそうでない者もあり、議論ではそれぞれの立場から意見が寄せられるとともに、その意見の背景にある互いの経験や環境を理解することができ、実に貴重な機会となりました。

今回のWSのテーマは「貢献」という非常に抽象的なものであり、すでに薬剤師として働いている私達からしても難しいものでした。おそらく、3期生の皆さんも私達とは違う難しさを感じながら議論をしていたと思います。抽象的なテーマについて統一的な方向性を持って議論を進めていくことは容易ではなく、むしろワークショップであるからして多方面にかかる意見が出てくるのが想定されるどころ、3期生の皆さんはそれらを見事に発表スライドに簡潔にまとめ上げていたと思います。

昨年に引き続きワークショップを開催してくださった日本薬学会と、その実行のために様々な準備をしてくださった先生方、関係各位に感謝の意を表するとともに、今年もワークショップに参加できたことを大変喜ばしく思います。

グループ IV (2期生) 小野寺 祐里香

今回は卒業生としてWSに参加させて頂きありがとうございました。去年と今年で立場が変わるとこんなにも見え方が違うということに驚きました。そしてまさか私たちも同じ題目で討議すると思いませんでした。4月から社会に出て、これでいいのか、このままでいいのかと迷ってい

た部分がありました。昨年のWSで考えていたことに近づけているのか、1つでも多く達成しているのかと。しかし、今回それぞれの立場から私たちの考えを改めて認識し、実現するために「今できること」を1つ1つ達成していこうと再確認できたことが私にとって大きな夢、そして目標となりました。憧れでもあり、目標でもあり、ライバルともいえる素敵な仲間に出会えたということに本当に感謝しています。

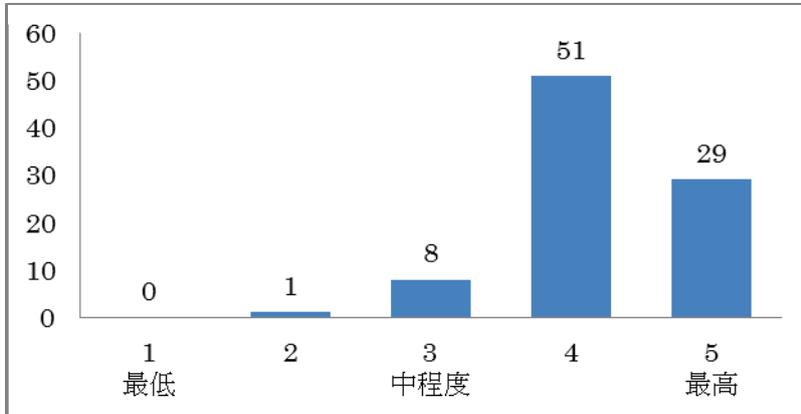
WSに参加させて頂いてこんなことを話すのはおかしいと思いますが、卒業生としてはもっと現役生の意見や討論する姿を見たかったと思いました。また、昨年の私たちと同じ題目で討論させて頂いて自分たちとの共通点や相違点について知りたかったです。WSは友好関係を深めることも大切ですが、相手がどんな考えを持ち行動しているのか、そして自分の意見を持ち相手に伝えること。そして、お互いを尊重し合い受け入れ、次はどんなことをすべきかと考え実践する所だと思います。私の考えすぎなところもあるかもしれませんが、今回このようなことがあまり見られなかったのではと残念に感じてしまいました。

今後は、Ⅱ期生だけではなく縦とのつながりを大切にし、意見交換していけたらなと思います。Ⅲ期生はこれから国家試験がありますが、そこだけにとらわれず広い視野を持ち続けてほしいと思います。

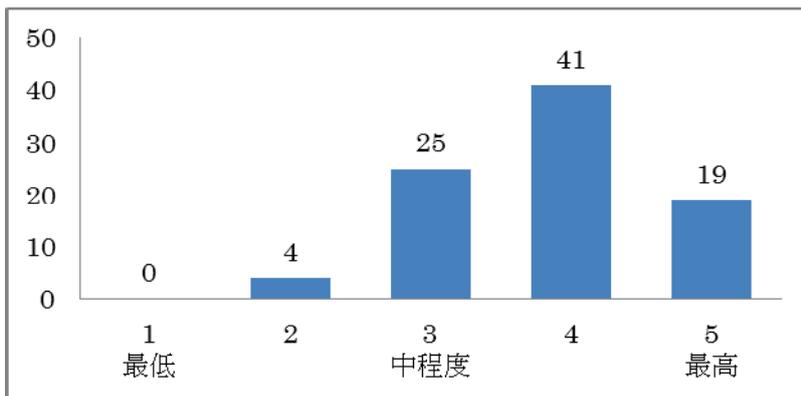
参加者 アンケート結果

第1日目の評価

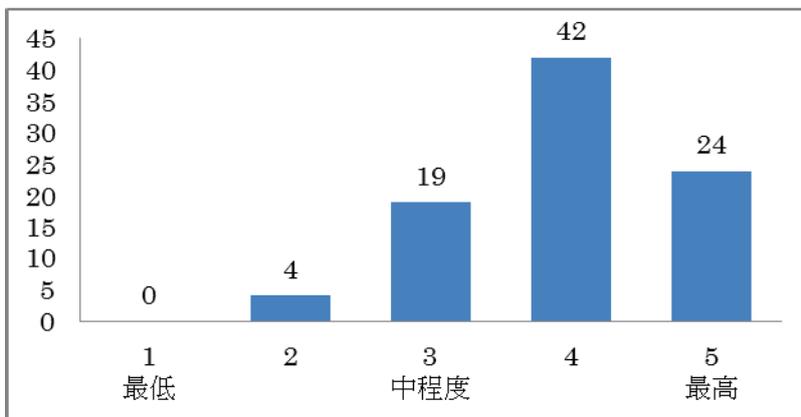
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



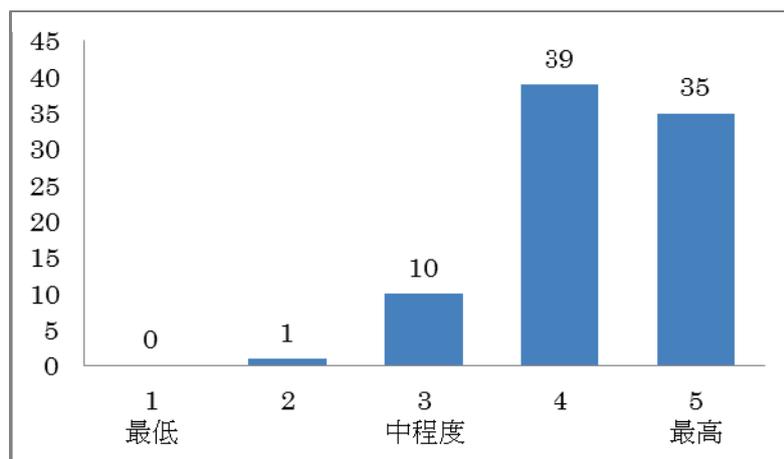
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事は良かったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

- 他大学の同学年との交流で、自分と似た意見、また、異なる意見を聞くことができ、とても刺激となりました。
- 特別講演では薬害に関する情報を得ることが出来、薬剤師としての心構えをもう一度見直す機会となりました。
- 薬剤師として大切なこと（生命の尊厳を知る。科学に誠実。薬害を最も知る専門家など）
- 共通の“薬剤師になりたい”という目標を持った同志たちが全国にこんなにもいたこと、その内でさまざまなバックグラウンドはあるが、共通のワークショップを通して今後、私たちが目指すべき目標がみえた。
- 一年前、自分が学部生であった時のことを思い出す事ができた。その上で、これから何を求められるのか、何をしなければならないのかという道すじを見定めることができた。
- 学生と社会人とで持っている意識が少し異なる。社会人は体験に基づくため、より具体的に問題点等を把握できる。
- 一年前と皆の意識が変わっていないことを実感できました。とても刺激になって良かったです。
- 多方面から色々な意見を聞かせていただきました。
- 現場の薬剤師の現状
- つながりの重要性和、変わらないアツイ思い考えを話しあいができ、とても有意義であったと共に、専門家として情報の選択と患者さんへの関わりを考えていくことが今後につながると感じた。
- 「何を变えたい」という共通の意識。どう変えるのか、何をかえるのか、それぞれの職種、立場での考え
- 自分が今、どんなことをかんがえるべきなのか、少し明確になったと思う。さらにみんながどんなことを考えて、前に進んでいるのか知れてうれしかった。
- 1年前の自分たちを3年生を見ることで振り返ることが出来た。そこから変わっていること

はもちろん大切だが忘れないことも大事だと思った。

- 卒業前と卒業後の自分と友人たちの成長・変化。
- 研究の先、治療の先には必ず患者がいること。薬剤師は科学者である。
- 常日頃、学業、業務を行っていく過程で、医療人・薬剤師としての考えが変化してくる。それは、出会いであったり経験であったり、各々違ったものである。故に、このようなWSの重要性を再認識できた。
- 自分が普段感じること、不安に思っている事は、一期生、二期生に共通して存在していることがわかりました。こうした意見交換の場で知り合えた仲間と協働し、6年生薬学教育の更なる発展へと貢献していきたいです。
- 笑顔となるには正しい知識とエビデンス評価も必要となること。WSで同期に言われて実感しました。
- 「今」感じた気持ち、疑問は今にしかないものであり、それを声に出していくことが大切。
- ワークショップから離れたあと、周囲の人々とのモチベーションの差に皆戸惑うことがある。
- 薬学部6年生卒業後の可能性は大きい。臨床で働くなかだけでも、色んな角度から薬剤師として関われることに気づいた。
- 「今後薬剤師として何をすべきなのか」ということを同世代、先輩方、又、薬害被害者である花井さんからおしえて頂き、とても実りある時間だった。
- 自分自身が考えていた薬剤師と他の人達の意見を聞いて、人の考え方はとても違っていることを実感しました。
- 薬剤師の多様性と、求められる場面が多いということの多様な意見を聞くことで、自分の考えを深める事ができた。薬害に関しては、薬に携わる人として、もっと理解を深めたい。
- 全国の薬学生が、これから6年生の薬剤師として何が必要かを考えていて、自分にはなかった考えを聞いて良かったです。すごく視野が広がりました。
- 各学校の方々が、それぞれの経験、興味に基いて、自分の考えをしっかりと持たれている事。今から6年生卒として、どういう態度・心意気で社会に出るべきか。
- 薬学部に入ってから将来の選択肢について、学生の皆と話す事で自分の視野を広げ薬学について理解できました。
- 多くの地域の薬学生と話す機会はこれまでなかったので、今回の機会に他の薬学生がどのように考え、どのような未来を想像しているか、グループワークをすることで理解できました。
- 薬学生の多くが、専門生を發揮してチーム医療にもっと貢献したいと思っていること。そのためには自己研さんはもちろんのこと、薬剤師の役割や仕事のアピール、他職種への理解が必要であること。
- 薬剤師の立場が改めてよく理解できました。また、他大学の学生と情報を交換することにより、今まで自分が考えたこともなかった意見を聞くことができてよかった。
- 薬剤師としてどう地域・医療に貢献していくか。
- これから目指す薬剤師像。
- 周りの人の考えを参考に自分も考える事ができた。
- 薬剤師を一言でいっても大変幅広い職種であると感じた。また、社会や医療に貢献するため

に、信頼を得なければならないと思った。

- それぞれの人が多くの意見を持っている事を改めて実感した。他大学の薬学生と意見を交換できてよかったと思う。
- 薬剤師の将来を考える仲間がこんなにもいること。
- 他の薬学生が薬剤師の将来についてどのように考えているのかということ。
- 将来の目指すべき薬剤師像について、多くの同期が共通の考えを持っていたということ。
- 他の薬学部の方々が薬剤師という仕事またその将来像についてどんなイメージをもっているか、どんな考えを持っているか知り、大変参考になりました。
- 自身と学ぶ環境が異なると、考え方の異なる薬剤師が育成せれる。当たり前のことだがOB・OGの方々や全国の学生とふれあうことで、考え方・姿勢を学ぶことが出来、とても良かったです。
- どの学生さんも今後の薬剤師としての姿勢が明確化されており、様々な意見を聞くことができた。
- 同じ薬学生でも、考えを色々持っていることを知った。
- 全く違う視点からの意見で討論することの重要性。
- 目指すべき薬剤師像を設定するという概念。
- 各々が薬剤師としてどう社会に貢献したいか、また何をやっていくべきかを考えており、自分にはない価値観を吸収できて、とても刺激になりました。
- 他大学のみんなが何を思って薬学部に進学し、今何をめざしているのか、したいのか。
- 先輩方（I・II期生の）が、自らをふりかえって私たちに伝えたいこと。
- それぞれの大学によって特色があり、また個人個人でも様々な意見を持っていることが分かった。
- 他大学の方の目標や人生設計を聞くことができ、視野が広がった。
- 今後の薬剤師に何が必要であるか。自分自身のおかれている立場、これから自分は社会に何をしていかなければならないか。
- 薬剤師と考えると現場で（医療の場）のみを考えていたが、そうではないと気づいた。もっと視野を広げる必要があること。
- 自分の考える薬剤師のイメージを皆もっていたこと。
- 薬剤師はどんな仕事に就いたのであれ、常に科学者としての正義を持ち、客観的に科学的根拠の妥当性というものを評価する立場であらなければならないと思いました。
- 薬剤師として社会に還元していくことに対する意見の明言か、整理。
- 「自分の大学内」というとじた世界に慣れていたせいか、他の参加者の方の薬剤師という職種への思い、あるいは描いているビジョンの多様性を感じる事ができたのが、今日1番理解したことです。
- ワールドカフェにおいて「薬学部に入った目的は？」という第で、「今の目的は不十分だが、薬剤師になったら具体的に見つけていきたい」という意見に共感しました。
- 他大学の薬学教育における取りくみ、そして自分の大学の良さを知ることができました。
- KJ法のすすめ方。

- 学んできた環境が、考え方に大きな影響を与えること。
- 他の薬学生と交流したことで、自大学の良い点とよりよい環境をつくる為に必要なことについて考えることができた。これからの社会に貢献するために必要なこと、できることについて。
- 「私たちの目指すもの」のテーマで、K J法を行い、島の分類に行き詰っていた時の高橋先生のアドバイスで再び話し合いを進めていくことができました。
- グループワークを行い、様々な大学の薬学生と触れ、それぞれいろいろな考えを持っており、各大学いろいろな取り組みをされていることがわかりました。そのような中で、今後同じ医療者として現場に出る上で今後の薬剤師に大切なものなどを色々な視点から話、理解することが出来ました。
- World Caféにより、議論が非常にやりやすかった。
- 一人一人の考え方が全く違う。
- 大学ごとにカリキュラム等特色があることを実感した。
- 社会から求められている事について、薬学生も意識を持っている。
- 地域や大学間での教育の制度の違い。
- 各大学に様々な特色があり、それらの教育を受けたうえで将来の薬剤師に対するしっかりとした意見を持っているということ。
- EBM情報の評価の大切さを改めて感じた。
- 薬学生としてこれからの医療にどのように介入していけるか、様々な意見を聞いたことで、より、自分の中で明確になってきた。
- 薬剤師免許を取るということはゴールではなくスタートだと言うこと。
- 薬剤師業務における薬物の適正使用の重要性。
- 情報・エビデンスの重要性。
- 様々な大学の学生を話、意見をいいあうことで、新しい気づきを得られたと同時に自分の考えがまとまっていくように感じた。
- 各大学ごとに特色が全く異なることと、それをふまえた上で個人の意見に多様性が生じるどころです。
- 薬剤師として働くためには人間性が重要。患者を知ろうとする思いが肝になる。
- 様々な特色を持つ大学があり、それが薬剤師の職能の多様性を示していること。
- 薬は患者様によって育まれるものであることを忘れてはならないこと。
- 6年制過程の中で皆自分の進路をはっきりさせていた。
- 臨床における、地域における薬剤師の役割の未来について様々な意見がきけた。
- 他大学のことについて。
- 医療従事者として考えなければいけないことがたくさんある。
- 学ぶ環境が違っても同じ目標であっても考え方も違ってくると実感しました。
- 薬害の詳細な内容と、薬の歴史及び薬剤師に求められていることについてです。又、皆さんの考える問題点には共通しているものが多いということもよく理解できました。
- 就職先が決まってきたこの時期に集まる事が出来、病院・薬局・公務員・企業のそれぞれ

就く人たちがそれぞれ異なった方法で社会・医療への貢献を目指していることがわかりました。

- 他の大学の方と接する機会が今までなかったのですが、薬学部でもただ薬剤師という職種だけではなく、様々な就職先があるということが理解できました。
- 薬害対策における薬剤師の重要性をよく学びました。講義などでも聞いていましたが、いまいちよくわからなかった部分がスッキリしました。
- 薬剤師として、これから社会にでて、貢献していく上で、私たちが扱う医薬品は不完全であり、その不完全なものをいかに扱うかがこれからの私たちにとって重要であること。
- 自分と同じ6年生薬学部請求書発行報告がどのような事を考え、何を大切にしているか、どのような進路に進むかということが分かって良かった。6年生薬剤師としてどのように社会に貢献していけばよいかということが理解できた。
- 有能な薬剤師になるために、今後どのようなことが必要とされてくるのかということ。
- グループの方々と協力して、学生なりに薬剤師として今後どのように貢献しているのか、理解することが出来ました。
- 全国の薬学生はモチベーション高く、薬剤師となったあとのビジョンを細かく描いていると思った。北海道の中にとどまっているだけではダメで、薬剤師の可能性を広げていくためには全体で職種問わず協力していくことが必要だと感じた。
- グループの分かれ方とグループ討論のすすめ方。
- 先生型が薬学教育の改善に向けて様々なとりくみを行って下さっているのがすごくよくわかった。こんなに、自然にみんなが議論に参加できるように組まれたプログラムに参加したのははじめてだった。
- 同じ薬学生でもバックグラウンドが少し異なるだけで、持っている考えは大きく異なるということ。
- 他大学の学生と交流し情報を交換する場がこれまで、ほとんどなく、国試や実習への取り組みなど、他大学の教育への取り組みを知ることができてよかった。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何ですか？

- どのグループも、よかったですが、もう少し長く特別講演を開き理解を深めたかったです。
- 6年生の意見を聞けなかったことが残念でした。
- 多方面から色々な意見を聞かせていただきました。
- 6年生の目標、考え方。
- 今回は3期生の集まりということもあって、「貢献」ということがキーワードになっているようですが、6年制に対する議論をもっと深めてほしい。
- 現役生は、どうして毎年同じようなことを言っているのか？
- 6年生の発表を聞く時間があまりなく、今の学生の思い・考えにあまりふれられなかったことは残念だった。
- 6年生三期生の発表を聞く時間が少なく、今の学生の意見になかなか触れられませんでした。

(情報交換会でカバーしたいと思います)

- 目標をかかげた上で、より具体的にどうすれば良いのかが一部不明だった。(薬剤師の専門家をつくる、薬剤師が処方箋を出すなど)
- まだ、今の現場の状況とかかわらないため将来に向けてなのか、現状なのかが理解しにくかったと思うところもありました。
- 4年生薬学とのちがいが。実際に4年生を卒業された先輩の話を書けるとよかった。
- もう少し全国各地の実際の現場のお話も聞いてみたかったです。
- 特に理解ができなかったことはなかったのですが、今後のグループワークでさらに理解ができたと思います。
- 今後どのようにアピールしていけば良いか。
- 現場で薬剤師が自分を信頼してもらうための第一歩とは何なのか。正しい情報を正しく提供することなのか。
- 先輩方の発表時、模造紙が遠くにあり、あまり良く見えなかった。我々のグループで行った発表者を囲む形で発表を見たかった。
- 6年生だからこそできること、考えられること、4年制との違いというものが何なのか、考えたり討論したが明確な答えがわからなかった。
- 薬剤師として目指すものを具体化していったが、どこまでなら可能なことなのかタスクフォースの先生方の意見がききたかった。
- 過疎他の医療を想定から外しているのか忘れていいのかの判別が出来なかった。
- 薬剤師が地位向上を目指すために、何をやっていくべきか、大まかな方向性は見えても具体論や方法がまだ見えてきませんでした。
- 薬剤師として職能を広げるには具体的に何から始めれば良いのだろうかと思った。
- 討議でチーム医療について病院の話がメインになっていたが、チーム医療は病院内だけのものではないと思った。
- 6年生教育の中で改善していくべきものは何か？今薬剤師という職種に関わっていない人が将来の薬剤師について話していたところ。
- 薬剤師の知位向上と言っているが、その目的を今いち理解できなかった。
- もっと他の大学の人々と交流をもち、他の薬学部について知りたかった。
- 一つ一つのワークショップの最終的なゴールが不明りょうに感じた。ゴールにたどりつくための手法と、そのプロセスがしっくりとこなかった。
- 自分の薬剤師に対する思いが、一番伝えられませんでした。
- 今後の医療、そして薬学において、具体的にとりくまなければいけない内容。
- 6年制になったことでのメリット。
- プロダクトに求められているニーズ。過去ばかりを考え、新たな視点を生み出すことができなかった。
- KJ法の流れを理解しきれていませんでした。
- KJ法を初めよく知らなかったのでスタートに乗り遅れてしまいました。
- 卒業生の方の臨床に出てからの実体験が発表にあまりなかった。現6年生と視野が近い。

- これからすべきことが、具体性に欠けてしまったように思います。（自分の班の発表でも）考える時間がもっと必要だと感じました。
- テーマに沿った話合いが出来ていたのかどうか。
- まだ聞けていない意見や考えもあるので、そこにもう少し自生的に踏み込めたらよかった。
- 全員が討論に積極的に参加しているので充実していると感じた。
- SGD の際、時間内にまとめるが難しく、バタバタになってしまったのが残念だった。
- 沢山の意見がでた際、それをまとめる作業の難しさ。（1 つ 1 つの関連性を見極める力の重要性）
- 絵を書くこと。
- ディスカッションの時間が短く感じ、深く話し合うことができませんでした。
- とても分かりやすい発表で、勉強させて頂きました。
- ワールドカフェで何度も自己紹介をしたこと。少しまとめてほしかった。
- 特別講演でとても重要な話がきけたが、時間が足りず、途中で省略するスライドがあり、その部分もききたかった。
- II グループ内での発表の際、5 分という限られた時間であったため、全ての内容を満足に理解する事が出来なかったように感じました。
- 花井さんや卒業生の方のお話が、すごく実体験を元にしていて心に残った。ただ、そのわりにはアウトプットの時点ではあまり伝わってこなかった。
- 理解できなかったことは特にありません。ただ、新しいものの見方があることに気付かされました。
- プロダクト II で、1 期生、2 期生の先輩のお話がとても新鮮で興味深かった。もっと、色々な意見、考えを知りたかった。

7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

- WS の様な活動は続けるべきだと思う。そして、さらに多くの学生が参加できるように地域毎での開催も考えていただけるとありがたい。卒業WS も面白いと思います。
- 昨年に続き貴重な場に参加させていただきありがとうございます。
- 短い時間でしたがありがとうございました。
- 今後も卒業生にも、プロダクトの作製に携わらせてください。今日はありがとうございました。
- 久しぶりに熱く薬学界について語れて有意義でした。3 期生もこのWS が良いきっかけになればと思います。
- 卒業生と現役とのかかわりがもう少しあればと感じた。
- ファイルはすごくありがたい！！
- 発表直前（18：00 頃）の到着だったにも関わらず、WS のメンバーもタスクフォースの先生も丁寧に接していただきありがたかったです。
- 議論のテーマが討論の中でぼやけていく（広がりすぎていく）ケースが見受けられる。今回

の大きなテーマは「貢献」だと感じたので、それを明確に打ち出した方がよいと思う。

- 部屋が寒いです。
- 全国のワークショップでの活動が薬学教育にどのように影響しているのか。
- タスクフォースの方々が、議論の方法や、その方向性を示して下さい、じよげをしてくださるのは嬉しいですが、議論の内容にまで介入するのでは、学生によるワークショップの趣旨からはずれれると思います。
- 機能からもそうですが、休憩時間がもう少し欲しい。
- もう少し、3回生の討論の様子が見たかった。まとまってしまう前の方がよりたくさんのリアルな意見を避けると思う。
- 2年間で成長しているのが少しだけ感じられた。
- できれば最初から参加したかったです。来年が仕事がないとよいですが... とても貴重なWSでした。
- 自分の視野の狭さや、考えの浅さを感じた。
- 特別講演を聞いて、薬剤師の立場の重要性を知ることが出来ました。
- 初対面の人だけの中で、うまくとけこめる企画が多くてよかったです。
- 他のグループ（グループⅠやⅢ）の人と交流する機会が少なかったのが残念でした。発表も全体で行いたかったです。
- いろんな意見が聞け、よい刺激を頂きました。
- チーム討議、SGDでグループ内での交流・親睦は深める事が出来たが全体としては不十分な気がしました。
- 特別講演は大変勉強になりました。ありがとうございました。
- もう少し詳しく聞きたかったが時間が限られていた。討議の時間をもう少し取ってもいいと思った。
- アイスブレイクなどを通し、チーム・グループでも仲良くなる機会・時間があつたので良かったです。
- もう少し質問の時間があればよかったと思う。
- 最初のWorld Caféは「お互いのことを知る」程度で終わってしまい、さらなる話し合いが出来なかったと思う。企画書の意図が少しわからなかった。しかし、良い講演もきけたしよかったです。
- 花井さんの講演がとても印象的で、今後のモチベーションUPにつなかった。
- ワークショップの時間配分についてもう少し配慮すべきだった。もう少し質問時間があるとありがたかった。
- 明日はより積極的に議論に参加したい。
- ろう下も冷房を付けて下さると助かります。
- ディベートする時間が多いので、ペットボトル持ちこみ「可」にしてほしい。
- 始まる前はどんな感じになるのか不安だったが、実際始まっていると色々な話を聞くことが出来たりして楽しかった。
- せっかくのこの機会を無駄にしたくないので、再度このメンバーで集まる機会があればうれ

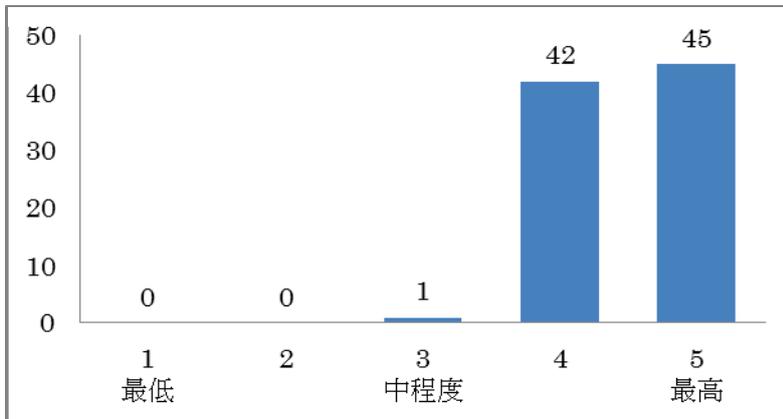
しいです。

- 受け付けをして筆記用具だけ持って移動して下さいと言われ、その後かばんを取りに行けなかったのが、必要なものが使えなかった。
- 大学の代表の人が集まっているため、かなりレベルが高めのディスカッションができたと思います。もう少し討論の時間があればもっと先の答えが見えてくるのではないかと思います。
- 今日参加出来てとてもよかったです。
- 今日出た意見をこれで終わらせることなく実際に行動を起こす具体的な案が必要かとも思いました。
- 他の考えの方々と討論を通じて、考えが変わったり、新たな考えが見えたりとても充実しました。
- 本日の具体的なプログラム内容を事前にもう少し詳しく把握したかったです。
- ワークショップの構成がよく考えられていて、大変勉強になりました。
- 小グループでのアイスブレイキングを行うと、登録がよりスムーズにできたのではないかと感じました。
- 他の学校の学生とディスカッションすることはとても新鮮で良い機会となりました。
- もう少し花井先生のお話を聞く時間が頂けたら幸いでした。
- 非常に意識の高い学生の方々と交流でき、参加してよかったと思います。
- 薬害について、どこか遠い昔のことに感じていましたが、実際の話を書き、絶対に忘れてはならないことだとわかりました。
- アイスブレイキングにより、和やかにスタートできました。ありがとうございました。
- タスクフォースの方にSGDでは大変助けられました。
- グループディスカッションの時間が短い。
- 高い志をもつ学生と意見交換ができてよかった。
- 全員が討論に積極的に参加しているので充実していると感じた。
- SGDにおいてタイムキーパーも決めておけば良かった。
- 他大学の人と意見交換ができ、とても充実した1日を過ごせて良かったです。
- とても有意義な時間でした。
- もう少し時間的余裕がほしい。
- みんな研究は研究者のみがやるものだと思っているのだなと感じた。
- 特別講演では患者から医療従事者への気持ちを知ることができました。自分のいる立場を他の視点から見るのが大切だと学びました。
- SGDの班に関係なく話ができるワールドカフェが、とても楽しく良い刺激となりました。大変有難うございました。
- とても楽しいワークショップで明日に期待です。
- 初めてWORLD CAFEをしましたが多くの方の意見が聞けて良かったです。
- いろいろな大学の方、卒業した方とお話ができとてもよい刺激になりました。
- もう少し、休憩があっても良かったです。

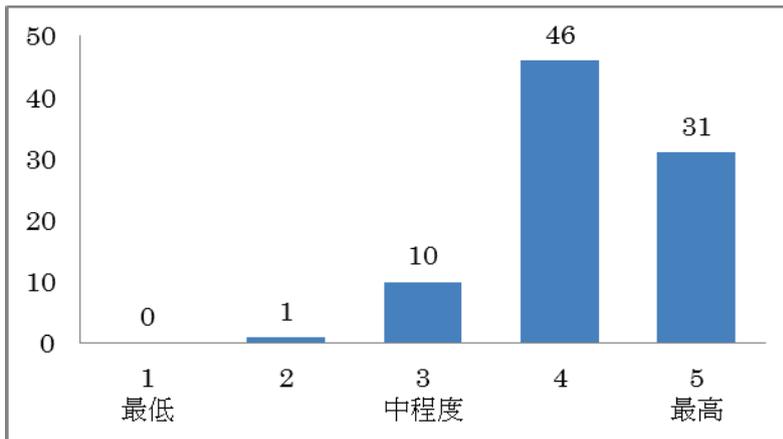
- スケジュールにもう少し空きがあれば、より良くなるかと思います。
- アイスブレイク前の昼食時一番緊張したので、導入前に今後の予定をもう少し説明してもらいたかった。
- 他大学の方の意見や考えを聞くことができ、少し打ちとけることができたので、良かったです。
- 私自身は薬剤師の他位が低いと覚えることがこの約6年間なかったので、他の多く学生の方が“他位”についてふれていたことに驚きました。
- 1期生、2期生の方々との交流の時間が欲しい。

第2日目の評価

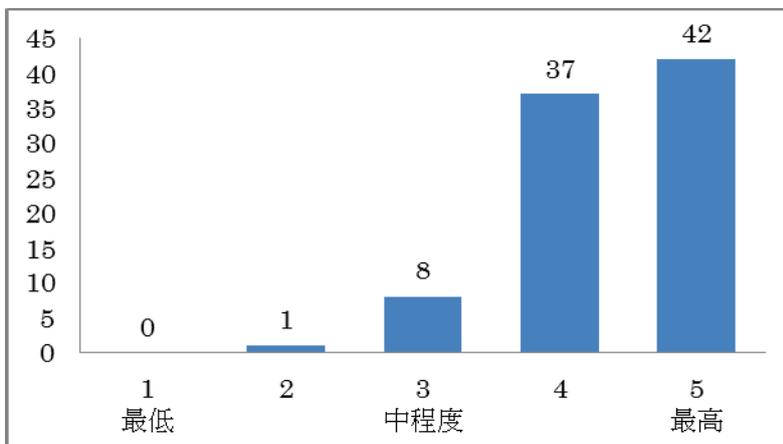
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



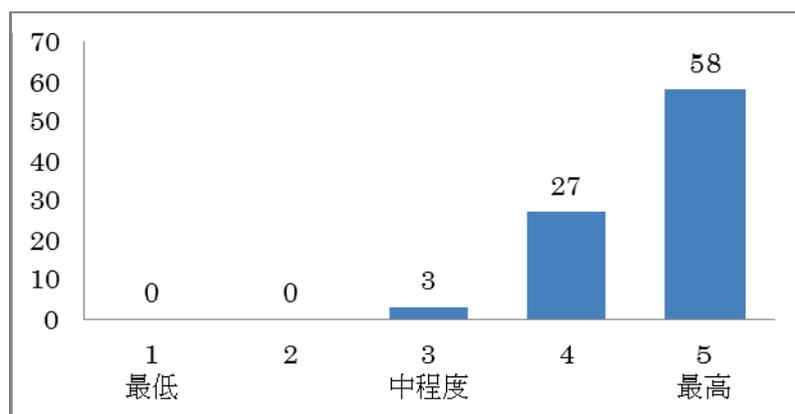
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事は良かったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

- 昨日の討議と今日のと合わせ、みんなの意見がよりスムーズに理解できた。
- 薬剤師としての強みである、薬理・薬物動態・製剤の観点から薬学的視点で患者をアセスメントする力が必要であること。
- 薬剤師の地位向上には私達 6 年制薬学部で学んだ薬剤師の活躍が必要になる。
- 前日話し合いをした上で、それに対する対策（次世代の教育や、薬剤師の生涯学習）
- 薬剤師の医療全体から見た立ち位置や、求められていることを挟間先生のお話を伺ってとてもよく理解することができました。
- 能動的な姿勢が大切だということ。
- 「これから、取り組むべきこと」で皆の意見が一致したこと。（それぞれで思うことが共有できたこと）
- 将来に向けて、何をすべきか、また何を研鑽すべきか。
- 実習に対する意見が他の大学同士で似ていた。色んな意見が出て、それぞれの意見をふまえて討論できた。他のグループも自分達の班と同じような考えを持ってまとめている。自分達の後輩に残したいもの、伝えたいことの意識が強い。
- 私たちは患者中心で討論をしたが、皆の発表をきいて様々な視点から考えることがあることが分かった。
- 学生からの視点、社会人からの視点、両者にいくつか違うポイントがあること。
- 実際に、DS、病院、薬局、メーカー（CPO）大学院に働く薬剤師として、ディスカッションし、これから薬剤師として他業種間同士でつながりながら医療界を変えることのできる希望が見えたこと。
- 各グループの発表を聴いて、今後の薬剤師の展望が具体的にみえた。同時に必要なスキル、マインド、勉強すべきトピック等が分かり、とても刺激になった。
- まだまだ実習には改善点が必要だと考えている人が多いこと。
- GDに参加している学生が、個々に将来の薬剤師のことを考えていることが分かりました。
- 挟間先生のお話で“薬を渡した所で終わらない”ということが印象的で、薬剤師の武器である薬理・薬剤・動態をもっと勉強しなければならない。

- 実務実習の期間がかわること（少し気になります）。薬剤師の姿が色々あるということ。色々学んできたのにそれを現場で活かせてないこと。
- 未来の薬剤師のありかたについて、ディスカッションしたが、それぞれが考えを持っていて、意見が分かれることもあったが、みんな薬剤師を少しでもよくしようと考えている人だと思った。
- 今の薬学教育に足りないこと。これからの薬剤師、6年制の薬剤師としてやるべきこと。何が薬剤師としてはたらく、活躍する上で目的なのが、目指すべき所なのか。
- 今後、薬剤師がしていかなければいけない業務と心構え。
- 薬剤師の地位を向上させるには、行政が頑張るのではなく、薬剤師自身が努力をすることで、国民に認めてもらう必要があること。
- やっぱり、あれこれ手を出すより、まずは薬剤師、薬のプロとして必要最低限のことをこなすことと、それに必要な知識を身に着けることが大事だと思いました。
- 薬剤師として患者さんにしてあげられることは、もっと沢山あることが分かりました。
- 狭間先生のお話を聞いて薬剤師として、また一つ異なる視野で新しいフィールド、考えを持っていきたい。
- 今後、薬剤師が目指していく姿を想像することができた。
- 自分の身近な学生同士でのディスカッションでは、コミュニケーションが大事！の1点なのに対し視野や行動力といった面にも多く、眼が向いている印象を受けた。
- 薬剤師が社会に貢献していく上で必要なこと、その背景や根拠、指針。
- 先輩薬剤師からの期待
- 薬剤師が変わっていかなければならない背景、その目指すべき場所
- 今後、自分たちがどう変わっていくべきかというものをグループの皆で考え、他のグループの意見を聞くことで、新たな刺激となりました。また、狭間先生のような薬剤師の職能を上げられる活動を第一線でされている方のお話を聞け、自分たちがどう変わっていかなければならないかを実感できました。
- 昨日の討論からさらに未来へつなげて、具体的に自分達がどういうことを大切にしたらよいか、自分の考えてなかったことを発見できた。
- 自分たちのグループでもフィジカルアセスメントの話は出ていましたが、それを手段として行っていくことが大切だということを改めて実感しました。また、6年制の薬学部の教育についても、人まかせではなく、自分が向上心を持つこと、そして後輩に向上心を持ってもらうことも大切だと思いました。
- 今から何をすべきなのか、今後どのような事に取り組むべきなのか具体的に変わった。
- 社会医療へ貢献できることという内容は昨日と同じだったが、私達が目指すものに取り組むべきことでは随分内容が違った気がした。今取り組むべきことをきちんと明確にし、取り組みたい。
- 学生のころの不安だったこととか、現役生は、同じように感じているんだと思ったし、それに少しでも話をできたのは良かったなと思った。狭間先生の話聞いて、今後、自分の薬局で在宅が入ってくる店舗が多くなり、変革の一部に今いるのかと思っている。今後、どう発

展して、薬理、薬剤の面でフォローし合っていけるかなど、今一度、考え直していただけたらなと思う。

- 忘れかけていた去年のWSでの議論、そして企業就職後見えづらかった「薬剤師」としての立場や視点を改めて意識することができた。
- 三期生が考える問題意識は、自分たちの代で出た意見と同じだと感じました。また、臨床系の意見が多かったので、企業や研究といった職域志望の人が少ないのかなと感じた。
- これから薬剤師としてどのように行動すべきか考えることができた。医師の中にも変化が必要だと考えている人がいるということが分かった。(講演を聞いて)
- 薬剤師として、これからやるべきこと。
- 薬剤師のこれからの取り組みについて、他の方達の考え方や価値観が多様で、色々なアプローチの方法があることが理解できた。
- 狭間先生の話聞き、今後の進路に関してヒントを頂けたと思います。大学で学んできた基礎科問を臨床に活かせるよう頑張りたいです。
- 狭間先生のお話で薬学教育と実務の内容がずれているということを改めて聞き、残念な思いを抱いたと同時に問題点が一つ明確になったことは良かったと思う。
- 患者に接することが大切だということ。
- 薬学で学んだことを活かして、医療を変えていかなければならない。それは、大学でも行政でもなく自分達自身であるということ。
- 業種による住み分けは重要だが、それが分裂につながらないように十分な交流が必要。
- 何期生か関係なく我々は「チーム薬剤師」である！
- 今から具体的にすべきこと。現状として、何が行われているのか。
- 薬剤師の仕事、地位を変えていくためには、まず自分が変わらなければいけないということ。
- 今の6回生の思っていることがよくわかりました。
- 処方解析ではなく、患者の謎解きが大事！固定観念は捨てて、新しい枠組みを私達6年制が作りあげていくことの大切さ。
- 薬剤師から今後薬学的診断を積極的に行っていくべきだということ。
- 社会に出て5か月間を経験し、一薬剤師として、医療の社会に還元すべきことを深く考えることができた。
- やるべき事、課題は多くあり、次に議論すべきは、いかにアクションを起こすかという事ではないのかと感じた。
- 狭間先生のお話を聞き、自分の持っている力を最大限に生かすためには個定概念にとらわれてしまっはいけないことをとても感じる事ができた。
- 狭間先生のお話を伺って、これから薬剤師として行わなければいけないことや、求められる能力について深く考えることができました。
- 薬剤師として貢献するためには何よりも自身のやる気が必要だということ。
- 今、今後について薬学生の立場、社会に出てからの立場で考え方や思いが異なっていくこと。現在、働いている1、2期生の先輩方と、3期生も同じような問題を抱えているということ。
- 職域の違いから、昨年とは異なった意見が沢山あってとても勉強になりました。

- これから、どんなことをするべきかということが、はっきりとした。また、外部公演を聞いて、私自身気になっていた点であったので、とても興味深く聞けました。
- 共通の問題を抱えているということ。発想の転換を必要だということ。
- 卒業一年目として、様々な職場で働く同期の話聞くことで、各々が何に悩んでいるのか分かった。
- 同期の皆が、就職して4ヵ月という短い間でも、自分の仕事について新たな視点を得、考えていたこと。
- 皆、実務実習に関しては、良い面も悪い面も見てきており、後輩にはもっと良い実務実習を受けて欲しいという共通認識があった。
- 社会貢献・医療貢献のために、私ができることやすべきこと。色々なことが今後必要になるが、中心となる大学で習うこと（内容）は必須であること。
- 狭間先生のお話を聞いて、今まで自分の中ではっきりしなかった問題が、医療全般に目を向けることで、自分なりに納得し、理解することができました。（薬剤師としての将来像がはっきりと分かった気がします）
- 皆の考える問題点が同じだということ。このままではいけない、変えなければいけないと感じました。薬剤師のベースとなる分野（薬理など）をしっかりと学び続けることの大切さを学びました。
- 実習中に学んだ、感じた薬剤師像は、今までの薬剤師。これからの薬剤は先回りする薬剤師が求められている。
- 大学間で実習やカリキュラム内容等異なる部分が多々あったが、自分達には“自主性”が必要であるという共通の考えがみんなにもあることが分かった。
- 何のために薬学教養科目を勉強してきたのか、すごくしっくりした気がした。職能の拡大とっているのをよく聞いたが、むやみに増やしてどうするんだろうと思っていたが、そうでないことが分かった。
- セルフメディケーションやEBMはどこでも強く意識されていることと再認識した。
- 薬学生の立場と現場で活躍する薬剤師での目線・視点が異なっている。～をやってほしい提案をするだけでなく、自分が行動し始める必要がある。
- 昨日、「薬剤師の地位向上」という言葉に対して、私が感じていた反感や違和感の意味や内容が、今日よく理解できました。「地位」は相対的なものであり、それを主張する前にやるべきこと、固めるべき基礎があるということ。忘れずにいたいと思います。
- 薬剤師の地位向上に向けて何が必要か、よく分かりました。
- 今後薬剤師の業務は「謎とき」であること。
- 自らが調剤した薬を患者さんに渡してから飲み終えるまで、責任を持って行動すべきだということ。
- 自主性を持ち、様々な人達の意見を聞き、今後を考えてゆくこと。
- 今後の6年制薬剤師としての自覚。どのように過ごしていけばよいか。
- みんなの薬学に対する考え方。
- 交流の重要性（意見交換ができるなど）コミュニケーション能力の重要性。

- 私達が今後何が出来るか、やればいいのか分かった。
- 薬学だけでなく、他の医療従事者との連携が大切、それを自らが率先して行うという行動力が必要。
- 「薬剤師として社会・医療に貢献するためには」と問われると漠然としたディスカッションになってしまいそうですが、「今から」自分に出来るのだと気付けた。しっかり勉強して、確固とした知識に基づいた質の高い医療を行える薬剤師になりたい。
- 1期の問題点。自分の中の現場の“おかしさ”について。
- 何をすれば貢献できるのかをどのように考えているのか話し合えた。これから、自分が何をすべきなのかも分かったように思う。
- 基礎がなければ何もできない。
- 薬剤師の地位向上のためには、私達自身が積極的に行動し、世間の人々に心をかえていく必要があること。
- 「失敗を恐れず」も大切だが、「失敗を恐れて」対策を考えることも大事である。
- これから何をしていかなければいけないか、どのように考えていかなければいけないか、学ぶことが出来ました。
- 社会や医療に貢献していくために、現時点でできることについて、また、将来像をより具体的に描くことができた。
- これからは私達が、薬学会を支え、発展させるということ。
- 薬剤師が職域を拡大していくためには、それに見合った知識や技能を備え、周囲から認められ、必要とされなければならない。これからの課題が見えた。
- 将来どんな薬剤師になりたいか、ならなければならないかが明確になった。ほぼ全員が同じような考えをもっていた。
- 考えなければならないキーワードは良く知っているが、その事柄をどのように、いつ、だれが、だれのためという具体的なところまで考えが至っていないこと。自信や確信というのは経験により成ること。
- 一部から三部への流れが、よく検討されていて、議論を進めていくにつれて、自分が目指す理想像が明確になっていきました。
- 昨日の討議と、今日のと合わせ、みんなの意見がよりスムーズに理解できた。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか？

- 最終的に、このテーマの結論は、1つに決められるものではないのかなと感じ、これからも考えていく必要があると思った。
- 今の課題としてですが、薬剤師は職の活動が広い分、目指していく方向性をしっかり見据えなくてはならないのだと痛感しました。
- 薬事行政の方向性。
- OTCの必要性(Ⅲ・Bより)、OTCに関する薬剤師の状況は危ぶまれていると考えるため。
- 色々な意見があって整理できていない。

- 3期生6年生の意見、もっと総合討論したかったです。
- 臨床現場での薬剤師像は具体的に考えることができたが、基礎科学と臨床のいわゆる“死の谷”を埋めることのできるような、研究者としての薬剤師像にもスポットをあてたかった。
- 実務実習の詳しい問題点・改善点。グループ内で話あったが、島の第に沿っていったという事で、とても臨床現場へ進む人向けの意見しか挙げにくい場となった。
- 他グループの発表で、時間があまりなかったがために、全体的に内容を理解することが難しかったように思います。
- 議論をする時間が短かったように感じた。
- 今後の薬学教育の具体的な指針や現段階でタスクフォースを含む教育者の立場の人の考えを聞くことが出来なかったこと。私達は自分達がこのように考えているというのを発表しているので、その間のギャップを知りたい。
- 昨日、今日のディスカッションで、最終的な結論はでたが、本当に良い結論だったか、まだ分からないので、これからの人生で確認していきたい。
- これからの薬学教育を改善するにあたって、具体的にどのような策が有効か。
- これから頑張ることで、情報の把握で卒後教育の検討となったが、具体的にどうすることで、社会・医療に貢献できるのかがつかめなかった。
- コミュニケーション力が重要であるが、その向上のためにどのような取り組みをするべきかということ。
- 少し流れがつかめなくて今日もスタートが遅れてしまいました。
- 実習期間の延長がリスクマネジメントの意識の向上につながるという話。
- 薬剤師地位向上のため。知識づけることは大事だと思っていたが、勉強ばかりに逃げ込むのも駄目だと分かり、何をすべきか分からなくなってしまう時もあった。
- 2日目からの参加だったので、今日の議論の基となった。模造紙の1つ1つの項目にきちんと目を通すことなく議論に参加してしまった。
- 社会貢献・医療貢献がテーマであったが、実際の今の日本が抱える社会問題・医療問題を例に挙げられていなかったので、少し現実的に考えずらかった。
- 今後どのように実習が変わっていくのか。薬学教育をどのようにしていきたいか。
- コミュニケーションとりづらい人に対して、どう対処するか。
- 「～したい」「～する」という発表に対して、実際に行動を起こせる人はどれだけいるのだろうか？もし足踏みしてしまうのならば、一期生として是非協力していきたいと思う。
- すっきりしました。
- 社会・医療への貢献のための必要な能力のディスカッションをもっとできたら、もっと考えを深められたと思う。
- 在宅だけでなく病院の今後の在り方などがあまり知ることが出来なかった。
- 自分達の考えが本当に社会のニーズと一致しているのか？
- 学部6年生がかかげた課題とその具体例に曖昧な点と、それをクリアした時のアウトカムにかい離があったように感じた。これは、実績経験がない（少ない）ため、詳細な情報がないのではと思う。

- 実務実習の本当に良い期間・姿を知ることはできなかった。今後、薬剤師となり指導者の立場に立った際にも考えていきたい。
- 理解できなかったというよりも、まだまだ知らないことが沢山あると実感した。
- 自分がすごくせまい中で考えていて、議論がかたよってしまいそうのなってしまった。
- 理解できなかったというより、時間が足りなかったという感じです。
- 取り組むことで、どう貢献に直接的につながるのかについて。
- 疑問点は、ディスカッションの中で解決されました。
- 薬剤師が国民から求められていることは、本当は何であるのかをもっと知りたいです。
- 自主性に関する教育方法（卒業後、時間をかけ学んでいこうと思います。）
- 私達が行いたいことが本当にこれから出来るのか、どの位かかるのか？
- 医療全体がつながることは、具体的にどのようにしたらいいのか？
- どうして実務実習を長くしよう等と考えたのか？
- 先生方や、学校、現場は何を求めているのか。
- 薬剤師としての最低限の職能が活かしていない現状（先輩談）。もう少し詳しく聞きたかったです。
- 実務実習が変わるということ、早く詳しく聞きたい。
- 先輩方が薬剤師として、今何をしているか、もっと深く聞きたかったです。
- 今の医療現場の問題の根本的な原因と具体的な改善策。
- 文科省のこれからやろうとしている内容。
- コミュニケーション能力や発信力が必要で、大学6年教育で学ぶ必要があるとの意見があったが、大学の6年のみで身につけられるか疑問が残った。ヒューマンスキルの向上は、日本の教育全体の問題ではないかと思った。
- 現場の薬剤師は、現状を変えることをしようとしないこと。
- 最終的に、このテーマの結論は、1つにきめられるものではないのかなと感じ、これからも、考えていく必要があると思った

7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

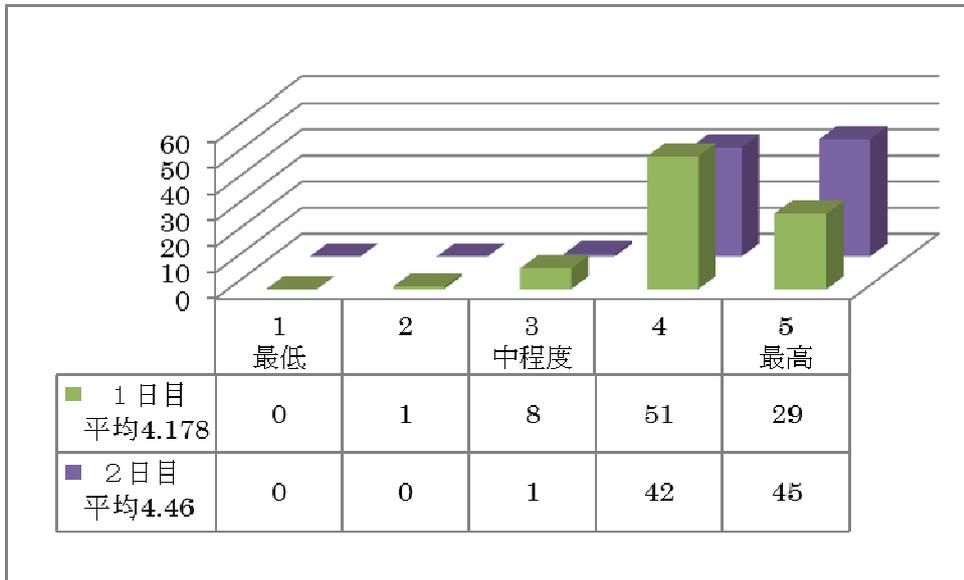
- 昨日に比べ、かたさもなくなったため、より深くまで、ディスカッションできて、大変良い経験ができた。
- 非常に熱い討論ができてよかった。
- それぞれの班ごとに、着目する点が異なり、とても勉強になりました。
- 自分を含めて薬剤師将来像（可能性）について考えることができよかったと思う。
- 見方を変えるだけで、違う意味にもとらえることができるということを強く感じました。（例えば、「失敗を恐れずに、やってみること」→「失敗を恐れても良いのでは？それから、失敗をしないための対策を考えることが大事」という意見）
- 皆やりたいことは沢山あるようだが、まずは本業をしっかりして認めてもらわないといけないと思った。

- もっと討議する時間を増やしてほしい。総合討論はもっと長く時間をとってほしい。
- 多様な考え方、特に“教育”を重視する視点がおもしろいと思った。
- 就職先が決まる前にこういう会があったら、また柔軟な話し合いが出来たような気がした。
- テーマを減らしても、ひとつひとつのGDを充実させることが出来れば、より良いものになるのではと思いました。
- 狭間先生のお話を聞いて、自分の仕事に対するモチベーションがとても向上した。
- とても有意義な時間でした。学生だけでなく、1、2期生と交流することもできて参加して良かったです。
- 最終の討論は、色々な立場の人の意見が聞けてよかった。
- 時間がもっと欲しかった。もっと沢山の人の意見を聞きたいと思った。
- とても有意義な時間が過ごせました。他大学の友達が沢山できたのでうれしいです。
- 患者さんの薬物治療では、評価をし、その後の計画を薬剤師自身が立案できるようになることが、6年制の薬学生の努めでいると思った。
- 今の自分に何が足りないのか、良い薬剤師になって患者さんに笑顔になってもらうには何が必要なかわかりました。
- 実現したいことをたくさん挙げられたので、今後それらを還元できるように、また、みんなで集まって議論していきたいと感じた。薬剤師として謎解きする力をもっと身に付けておきたいと思った。
- 更に進んだ内容のワークショップもいいと思いました。
- 教育講演とても勉強になりました。
- 最後のディスカッションは楽しいと感じる。ディスカッションの時間をもっともっと多くしていけたらいいと思う。
- 他人まかせにしないで自分もその一旦をになう立場にいることを自覚することが大切だと思うし、今後も見えて見ぬふりをしないで関わっていきたいです。
- 小休憩の時、もっと飲み物の種類があると嬉しいです。
- 今後、薬剤師が取り組むべき問題が明らかになったと思う。有意義であった。
- 最後の発表のように、他の発表も5分以内なら4分に一度合図をくださるとうれしいです。
- 現状の問題として考えている部分は、結構共通であるということが分かりました。
- タスクフォースの先生が適宜助言をくださり、議論の方向性を見失うことなくできてよかった。
- 薬剤師のことを理解し、期待してくれる方々がいることは、大変光栄であり、感謝するところではありますが、いつまでも甘えているわけにはいかないので頑張ろうと思います。
- 否定的ではなく積極的に、未熟でもなんでもチャレンジすることって大切だなと思った！
- 各グループで共通した主張として今後セルフメディケーションの充実が重要だということを確認した。
- 他の大学の授業カリキュラム内容を知り良かった。自分の大学で取り入れて欲しいことも多数あった。
- グループ内でも昨日より活発な意見や討議が行われて、自分にこれまでなかった考え方を知ることができました。

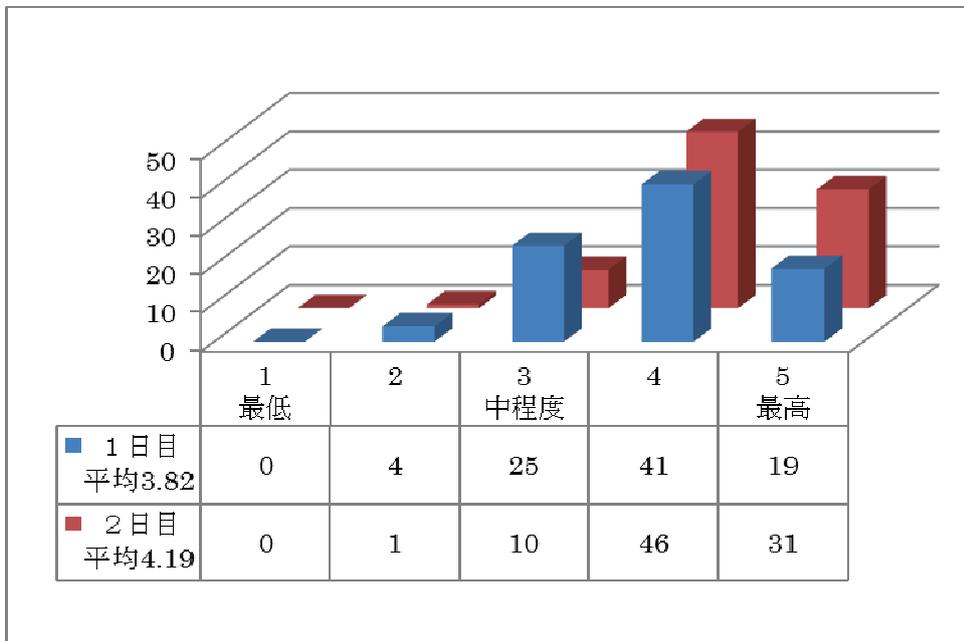
- 狭間先生のお話を聞いて、他の立場から見ると薬剤師ってこんな風に見えるのかと実感させられました。
- テーマ設定が2期生にとって、とても難解でした。
- 長期実習は、後輩たちにも同じ思いをさせてしまったのは、とても残念に思います。文科省の発表を心待ちにしています。
- 総合討議の時間をもう少し長く・・・。
- 昨日（1日目）で仲良くなれていたので、討議がスムーズにできたと思う。
- 同期生の方はもちろん、先輩方が実際に働かれた中で感じたこと、意見などが聞けて、すごく考えさせられることが多かったです。
- まさか2日連続で発表役になるとは思わず、本当に緊張しました。（笑）しかし、改善点が見つかったので、良い機会となりました！頑張ります！
- 狭間先生のお話がとても面白かった。大学にもどり、今後の薬剤師の在り方を皆で共有したい。
- 2日目ということで話し合いにも入りやすく、昨日よりもさらに深く討論することができました。
- 昼食の時間ももったいないくらいにたくさん話し合っ、納得いくプロダクトができた。
- 地方からこういったワークショップに出ることで、都会（というと大袈裟か）の価値観や状況を知ることができ、よい体験だった。
- 大学院について。6年制卒業後大学院に進むメリットについても、もっと議論しても良いのではないのでしょうか。ノーベル賞とられた山中先生も医学部ですが、6年のあとドクターコースに進んでいます。薬学6年+研究ももっとメリットがあって受け入れられれば・・・。
- 卒後教育が卒後のチェックポイントなど、実際に働いてみて、必要性も感じたことを発信していきたいです。
- もう少しゆとりのある時間配分を。終了時間は守ってほしかった。
- 自分の考え方を見直す良い機会になりました。
- 時間が足りなかった！！
- 狭間先生の「薬剤師が変われば地域医療が変わる」というお話を聞いて、薬剤師にできることはまだまだあるし、それに気付いて能動的に動ける薬剤師にならなければいけないと思った。
- 1期と、2期、3期の空気が違う。下級生は、仲良しクラブ、飲み会サークルのような感じを受ける。アドバンス情報交流会は、遊びが過ぎているのでは？
- 薬剤師だからこその視点を持ち、医療にかかわることが大切なことを知れた。もっと知識（薬学的事実だけでなく、その他のこと）も増やしていきたいと思う。また、積み上げるためには基礎が大切なことも改めて感じた。
- 行政や大学に対する要望を皆さんよく考えられていると感じた。
- 1日目の復習が、本日活かされていて、本ワークの内容・意見がふにおちました。
- SNSを主な情報源だと思っているのはよくないと思った。
- タスクフォースによる介入が議論を深めるのに有効だったと思います。
- 昨日に比べ、かたさもなくなったため、より深くまで、ディスカッションできて、大変良い経験ができた。

第1日目と第2日目の評価比較

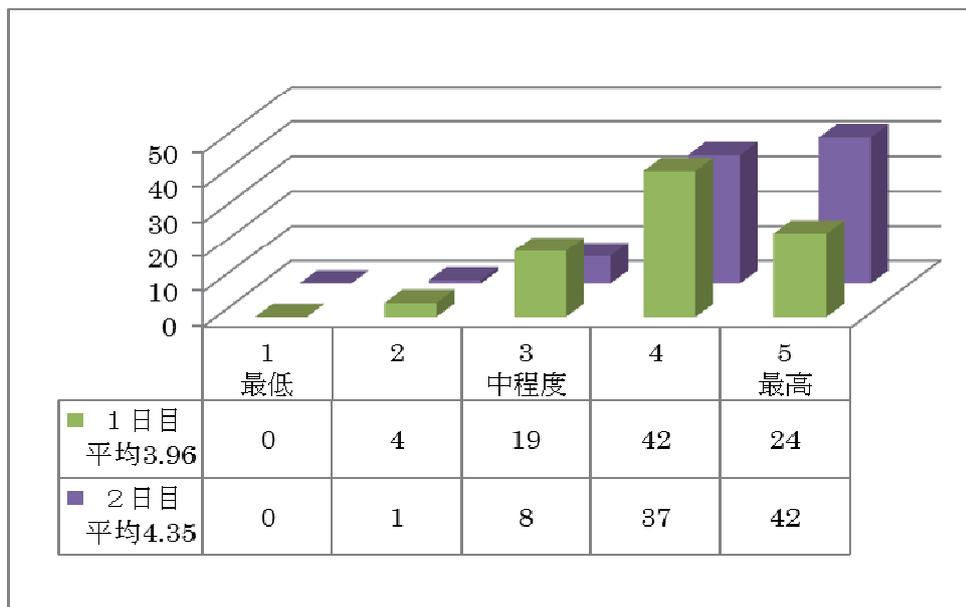
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



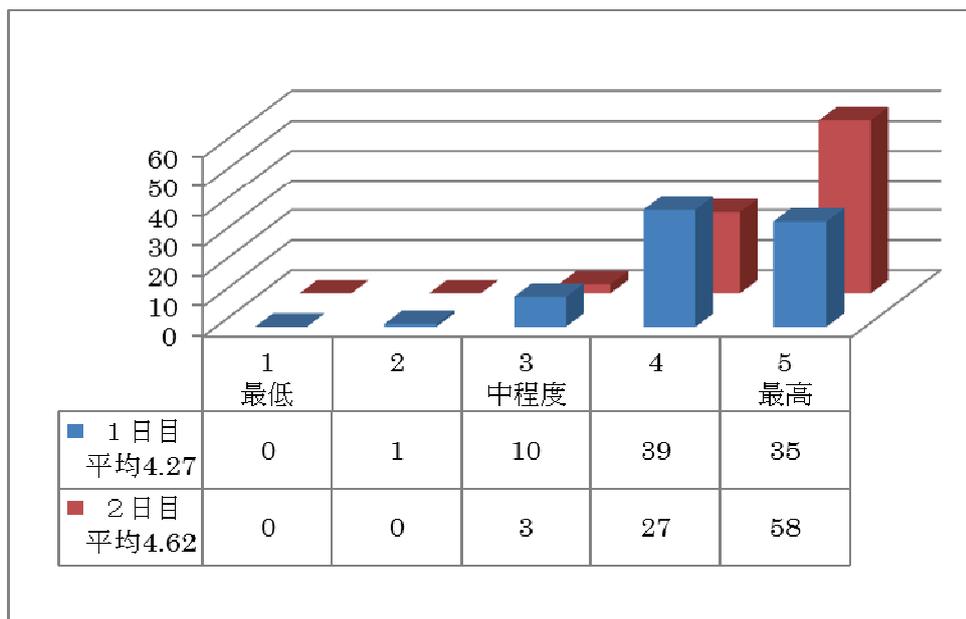
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



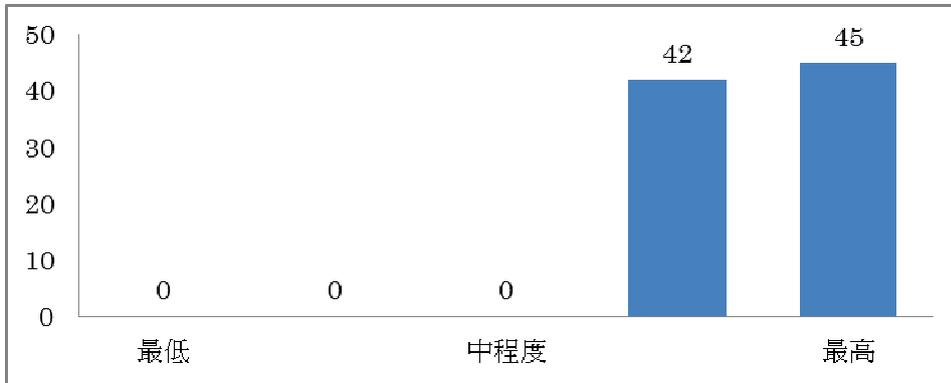
4. 今日のタスクフォースの仕事は良かったですか。



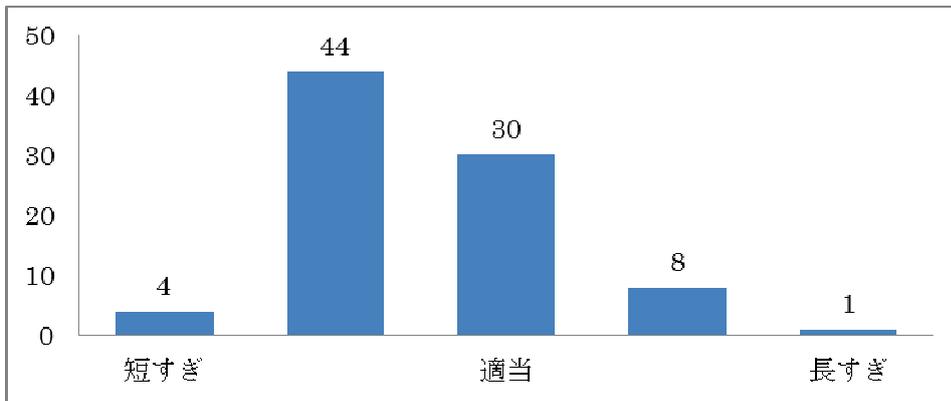
ワークショップ総合評価

1. 今回のワークショップを全体的に評価してください。

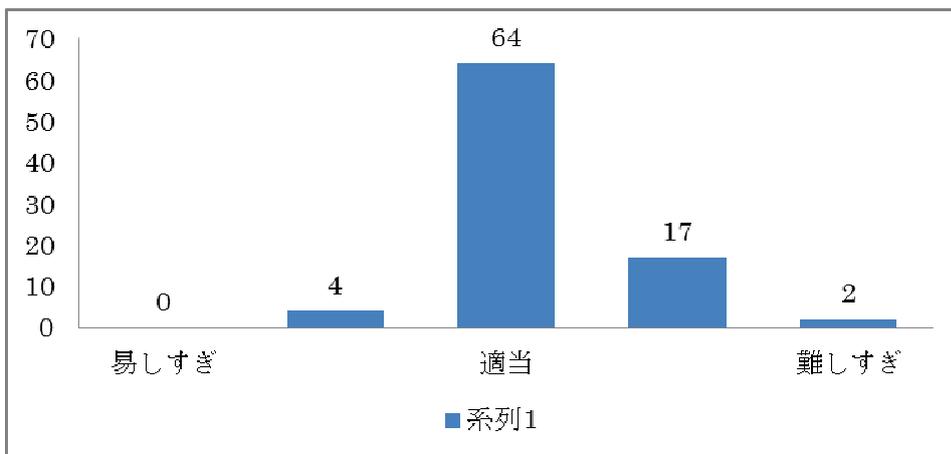
1) 内容の価値について



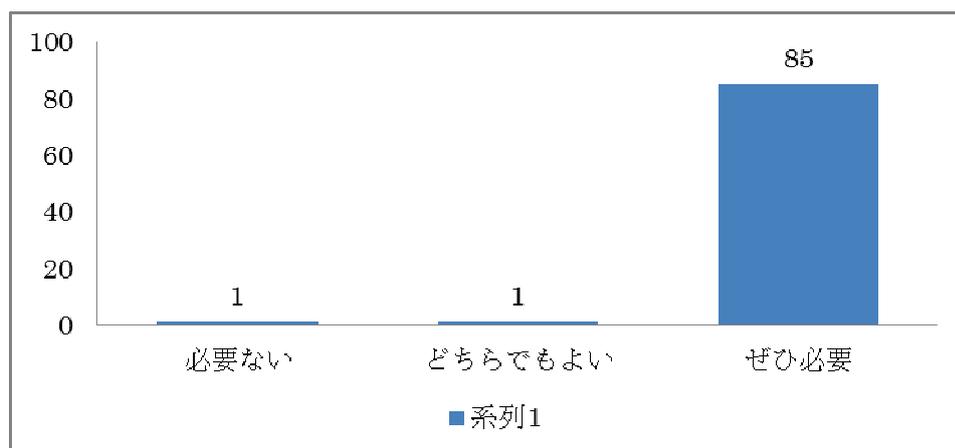
2) 内容に対する時間について



3) 内容の難易度について



4) このようなワークショップを継続することについて



2. 今回のワークショップでよかったと思われることをお書きください。

- 地域も、大学環境も異なる同じ薬学生と話す機会はあまりないので、大変貴重な経験をさせていただけた。
- 他大学の学生と接することができ、様々な意見が聞けたこと。
- 薬剤師の将来に対する見方が変化したこと。
- 多くの薬学部生と会えることで、行政・大学に進む人の意見・考えを聞けたこと。
- なるべく多くの学生・社会人の方々と交流する機会を与えて下さった点。
- 普段あまり関わることのできない他大学の薬学部生と一緒に議論し、意見を聞くことができたのでとても良かったと思う。さらに、花井さんや狭間先生などの貴重なお話を聞くことができとても良かった。
- 周りの先見、今の現状をかえたいと思うことはつまり、自分自身が変わることであると気づきました。
- 多くの大学の人たちの意見が聞けて、よい刺激になった。
- 全国の同期の薬学生の意見がたくさんきけてよかった。自分がいかに大学生活を漫然と過ごしてきたのか、感じることもできたとともに、これから、この会の周りのみなさんのようにモチベーション高く努力し、薬剤師をかえていきたいと思った。
- 普段、関わることのない他大学の薬学生の方々と熱い討論ができたこと。宿泊施設がとてもきれいだった。
- 横のつながりが出来たこと。2人の方の講演をうかがい、今後の自分の将来像を描けたこと。
- 新しい仲間と会えたこと、情報・意見の交流ができたこと。
- 自分の中でもっと頑張らないという意識が芽生えた。
- 他の地方の大学の生徒さんと接する機会はなかなかなくて、色々な意見を聞くことができ、自分自身の視野が広がったので良かったです。
- 全国の薬学生規模でのワークショップは、とても刺激的で楽しめました。
- 全国から様々な人達が集まり考えていくことができ良かった。
- 大学に選出されている学生も意識の変化や行動の変化を起こすようなプログラムになってい

ること。

- 全体発表の機会が多く、色々な意見を聞いた。
- 六年制の薬学生が一同に集まって情報交換や今後の自分たちの在り方について互いに意見し合いながら考えられたことは大変為になりました。花井さん、狭間先生のような生の声が聞けたことは大変ありがたかったです。
- 他大学の人と交流し、自分の知らない世界や考え方を知った。特別講演の内容も、自分の中で悩んでいた部分のヒントになった。
- 自分や同じ大学の人ではなく、全国の様々な薬学生の話をお聞きことができ、医療に対する意識やモチベーションが高まったと思います。ワークショップの内容もとてもためになり、このような活動が今後も続けばいいと思いました。
- 全国の薬学生と交流し、考えを共有することができた。
- 意見を出し合える仲間、1期、3期などの従来のつながり、新しい価値観の触れ合い。
- 様々な大学の代表が集まって意見を交換することでお互いに刺激を受け、共に意識レベルを上げることができたと感じた。
- 企業、病院、薬局、院、様々な立場で働く薬剤師同志が、自分たちの役割について真剣に語り合う場は他にないと思います。ぜひ3期生にも卒業後も続けてほしいです。視野が広がります。
- 花井さんや狭間先生の話などをお聞きすることができたのは良かった。
- 将来、様々な職種に就くであろう人達と交流出来て良かった。臨床薬剤師として働こうとしている人達の意見や考え方を知ることができ、自分の考えたことの違いに気付いて良かった。
- 全国の学生と触れ合い、多くの刺激を得ることができた。
- 他大学の人の様々な考え方・価値観に触れることで自分の考え方を見直すきっかけとなったこと。
- 様々な大学の考えを持つ学生と交流でき、視野が広がりました。
- 特別講演はすばらしかったと思います。(両先生とも)
- 他の大学・地域の教育内容がわかる様々な意見が聞け、参考になる。他大学の知り合いが増えた。
- III期だけでなく、I、II期生も来られていたこと。
- 夜の交流会があったこと。(酒がもっとほしかった)
- ワールドカフェは初めてでしたが、グループ付論の手法を1つは良いと思った。他大学との交流ができて本当に良かった。
- 全国でさまざまな教育を同じタイミングで受けてきた仲間のいろいろな現状が知れて大変多くの情報を短時間で得られました。それによって、今後自主的にやりたいこと、やってみたいことが増えました。
- 種々の大学からいろいろなバックグラウンドを持つ人が集まって話げできたこと。自分にはない考えや価値観をお聞きすることができて非常に良かった。
- まだまだ熱い意見が交わされて良かった！！
- 狭間先生のご講演が聞けたこと。また、現在の薬剤師の状況にみんなが疑問を抱いて、それを解決する術を討議できたこと。

- 2日間、濃い時間を過ごせました。
- OBとして参加し、薬学生の時とは違った立場からディスカッションに参加できた事。
- 外部講演とテーマのマッチングがあり、考えたこと、現場で先頭を切っている方からのお話を照らし合わせることができて良かった。
- 自分と同じ思いをもっている人、逆に異なる思いをもっている人の考えを知ることができて良かった。
- 全国各地の薬学部6年生と意見を交わすことができて、今までになかった考え方を発見することができて刺激になりました。ここでの出会いを大切にしてお互い高め合っていきたいと思います。
- 一番良かったのは全国に友人ができたこと。今回に限らず、今後も関わり合い、お互い刺激しあえる仲になりたいと思った。
- 心ざしを共にする仲間との交流ができて明日以降の勤務に向けたモチベーション up になりました。
- 3期生の考えに触れる機会があったこと。
- 三期生が悩んでいる内容で自分達と同じことを悩んでいる人だなと分かったことと、一方で自分達にはなかった提案も上がってきたことで少しずつでも変化が起きているのかなと感じた。
- 後輩の意見を聴けて、さらに意見交換できたことです。社会に出てしまうと、実習生に合わない限り、お話することができないので、とても貴重でした。また、外部公演もとても心に残りました。
- 教育講演、大変勉強になりました。
- 全国の学生があつまること、学校環境の違い等で、こんなにも考え方が変わってくるんだということにおどろきました。自分の知らなかった事を吸収することができ、とても有意義な時間をすごせました。
- 全国の薬学生と交流できたこと。(先輩も含む)
- 薬剤師と薬学部の今後の在り方についての考えを共有できたこと。
- 色々な形式を経験できたこと。(KJ法、WC法)
- 皆が積極的でこういう人達が情報の発信者になっていくように思いました。今後私が社会貢献していく上で、とても良い参考になりました。
- 多くの他の学校の学生と話せて新鮮でした。皆とても積極的で自分の意見をしっかり持っていて見習う部分がたくさんあった。
- 卒業生のWSが、去年と違ってしっかりあったこと、時間の押しが、だいぶ改善されたこと。
- 他大学の学生と、未来について語ることができたこと。
- 横のつながりが、縦のつながりが広がったこと。
- 他大学との交流があり、また様々な進路を考えている人がいて、薬剤師として自身がどのようになりたいかを改めて考える良いきっかけになったこと。また、薬剤師が多くの人に認められるような仕事を将来必ずしていきたいと思ったこと。
- いろいろな意見や考え方を知ることができて、刺激を受けることができました。

- 6年間違う環境で教育を受けて、価値観の異なる仲間とともに作業をして考えをまとめていくというプロセスがとても有意義であった。
- 他大学の学生、実際に働いている先輩方との情報交換ができたこと。
- 他大学の学生、薬剤師として働かれている、先輩方の意見を聞いて、残された学生生活、また社会人として、薬剤師として働くうえで、大切なことを色々学び、また学ばせられる機会でした。ありがとうございました。
- KJ法やワールドカフェなどが、あまりしたことのない方法でディスカッションできて、大変勉強になりました。有難うございました。
- グループの分け方、テーマの選定が良かった。色々な大学の人と考えを学ぶことで、新しい気づきを得られた。
- 普段の生活では関わることができない他大学の方と情報交換することができ、また、今までの自分の考えや行動に対して良い刺激をもらうことができました。実際の現場で働いている先輩の私達と違った視線からの意見を聞くことができ、勉強になりました。
- 多くの大学の方と交流できたことで視野が広がったこと。薬剤師として貢献していくために必要なことについての意見交換ができたこと。
- 各大学・各実習先での経験をもとにしているのも、みんな必ず自分の意見をもっていて、他と比べてどう思うのかを積極的に表現できる場だった。
- できるかぎりの交流、意見交換の時間を設けていただけたこと。
- 全国の大学から集まった学生と、異なる価値観でディスカッションができたのは感動的だった。
- 地元の他大学との交流をはかることを視点として、全国の大学との力を合わせて、薬学部を盛り上げていくことができると気づいた。価値観のちがいが、志の高い仲間の意見がすごく刺激になった。
- 各大学、各学生の個性を知った上で、現状の問題点について考えられるということ。
- 多くの学生と交流でき、同意見・異なる意見をきくことで、自らの考え、思いも再認識できた。
- 他大学の学生さんと交流できた点。
- 共通の命題に対してディスカッションできた点。
- 狭間先生のプレゼン
- 様々な意見、信念をもっている学生とふれあえたことで、自分自身が思っていることについて、色々意見してもらえたこと。
- 自分の将来に対する考えに幅ができた。
- 大勢の全国の仲間と交流できたこと。
- 全国の薬学生とつながれ、様々な思いや考えをきくことができた。今後社会人になってから、学生からのつながりは非常に大切であると思うので、ぜひつづけてほしいです。
- 少人数でのディスカッションの機会を多く作っていただき、様々な考えの人とじっくり話し合うことができた。
- 他大学との交流、様々な情報交換（大学の状況含む）。将来像が明確になった。

- 1 班に 1 人のタスクフォースが付き、アドバイスや指摘をしてもらえたこと。他大学の同級生と交流が行えたこと。
- 特別講演（2 演題共に）
- 各大学からの学部生と交流とつながりをもてたことや、情報の交換・意見・考え方の共有ができたので、良かったと思います。また、討論のテーマも、深く考えさせられるテーマも、深く考えさせられるテーマで良かったです。
- 事前に入念な準備をしていただいた事がよくわかりました。各部のつながりが大変スムーズだったと思います。
- 世代を越えた討議ができたこと、また、職種をこえて話ができただけによって、薬剤師同士のニーズ、問題点を見い出すことができた。
- 他の大学の人と関わって、意見交換ができ、とても刺激になった。
- チームだけでなく A・B・C 他のグループと混ざる機会もあってよかった。
- 他大学の学生は本当に様々な意見・アイデアを持っていて、良い刺激になった。
- 全国の薬学生と触れ合うことで、多様な視点、意見、考え方等を考えることができたのでよかった。
- 様々な大学の学生や、卒業生と交流することで、自分の大学で学んだことを伝え、今まで知らなかった情報を知ることで、薬剤師としての視界がひろがりました。
- 我々若手の社会人と、学生の考えに違いがあることがわかりました。また、我々の訴えを素直に受けとめて、ディスカッションして頂いたのは大変嬉しく思いました。

3. 今回のワークショップの問題点と思われることをお書きください。

- 予定が少しタイトすぎたように感じた。
- ディスカッションの時間が短い。
- 企業（特に研究・製造など直接患者と会うことがなくなる職種）からの意見がなかなか通りにくいメンバーな感じがしました。（病院・薬局組が多く、臨床的な方向からみて意見が進んでいき、時間の関係からもなかなかその方向以外から切り込みにくい）。
- 時間配分。
- タイムスケジュールが分きざみすぎる。もっとしっかり議論したかった他のグループともう少し交流できる機会があるともう少し良かったと思う。
- 私は D グループ、C グループのみの交流でしたのでほかの I a, I b など全体の人と交流したかったです。懇親会では同じグループではなくちがうグループにするのはどうですか？
- このままで問題ないと思う。
- アドバンスト懇親会の際のイスとイスの距離。正面にいる人との距離が遠く、会話しにくい部分があった。
- もう少し、SGD の方法を詳しく説明して頂きたかった。（イメージがつかみづらい）
- 少し作業がチーム毎に違っている。タスクフォースにより言っている作業内容がバラバラ。その辺は統一した方が混乱がなくていいかと思いました。

- タスクフォースの方が議論を止めすぎると自由な発言がしづらいと思いました。(軌道修正なら良いんですが)
- 空調がききすぎであった。
- 欲を言えば、1つ1つのWSでもう少し落とし所が明確であればと思いました。又は、タスクフォースの方が、学生の力量に応じてコメントする回数を増減すると、脱線せずかつ主体性のある議論になる気がします。
- ワークショップの時間が短かった。
- 同じPの交流は多かったが、他のPと関われる時間が短かった。
- 時間がキツキツだったので、もっと深めたかった。
- 自分がMRになるからということもありますが、「薬剤師として」だけでなく、企業やCROなどいろいろな視点で話し合えたらありがたかったです。
- トイレに行く時間があまりない。
- もう少し、全体的に時間に余裕がほしいと思いました。
- 第三部のセッションⅡにて休みが欲しかった。
- 短い。OB・OGを増やすために、土日で開催していくことは重要。
- 自分の班では出なかった意見などをもっと詳しく他の班に聞いたかったが、時間がなかった。もっと質疑応答の時間を長くとりとよいかも！？
- 内容が盛りだくさんすぎて、質疑応答の時間が少ないと感じました。消化不良の気持ちを各大学に持ち帰って、今後の更なる学びの意欲へつなげるのかもしれませんが・・・。
- 時間がキツ^②すぎる印象がありました。
- 時間の都合上、議論を切り上げざるを得ない場合があり、スケジュール時にS・G・Oが短いように感じた。
- 報告書の負担が大きい。
- 夜、外を出歩いて部屋でのみだった。
- 討論しきれない部分もあったので、時間的な余裕がほしい。
- 時間が短い。2泊でもよいような・・・。
- 研究や開発、アカデミアなど、薬剤師以外としてはたらく人がもう少しいるとよかった。
- 情報交換において、ビールの本数は少なかった分、水やウーロン茶の本数が多かったのも、学生たちは不満だったのかもしれませんが。
- 回を重ねるごとにWSの価値は、学生の中で下がってきてしまうのではないかと少し不安です。前回より覇気がなかった気がする・・・。
- 質疑応答の時間が短すぎる。発表も重要だが質疑応答がなければ、深い議論ができない。
- プレゼンと総合討論に間をあけてしまうのは、意見交換のモチベーションを下げてしまっていないか心配。だが、教育講演を加えた点はとても良かったと思います。
- ディスカッションの時間は、最低1時間は必要と考える。
- アドバンスト交換会でも少しお酒が欲しかったです。
- 朝ご飯の時間が・・・。
- 同じPの人意外とあまりかかわれなかった。もう少し交流できればよかった。

- 「薬学教育」に限定的にフォーカスを当てたテーマが1つくらいあっても良かったのではないかと思います。
- 時間配分の改善が必要。1つのテーマに対し、ディスカッションするだけのパートもあればより良かった。
- あまり参加できていなかったのでごめんなさい（思いつかず）。夜に喫煙しているのはどうかと思いました。（三期生）
- 毎年、休けい時間が短いことです。
- 昨年は、「6年制教育に望むこと。卒業後に取り組んでいきたいこと」をテーマに総合討論を行いました。今回は「社会への貢献」がテーマでしたが、6年制薬学教育にフォーカスをあててなぜ議論させなかったのでしょうか？
- 時間が少し短かったと思うところもありました。総合討議の時間を少し長くしてもらいたかった。
- プロダクト作成やKJ法・ワールドカフェという方法論は、議論の道具、手段にすぎない。プロダクト作成や話し合いの方法論の理解に時間や労力を割きすぎることのないよう、負担軽減の工夫をして頂けるとありがたい。
- 時間（期間）が短かったこと（2泊3日位がいいです）。
- 討論する時間をもう少し（各セクションあと15分くらいずつ）欲しかった。
- もう少しディスカッションの時間があれば良いと思った。
- 客観的に把握できていないが、一期生の時と比べて討論が殺伐としていない感じを受けた。どこかに友好感があるような感じだった。
- 発表するために準備する時間が短かったように思う。事前にテーマだけでも発表していただければ、いろいろ想像がふくらむと思いました。
- SGDの設定時間が短いときがあったこと。
- 遠方からくると、朝が早いのに夜も遅くまであるので、ちょっと睡眠不足かなと思いました。
- グループのわくをこえた作業がもっとやりたかった。
- 総合討論の時間を延長して欲しかったです。
- 4役ではなく、タイムキーパーも含めた5役で進行した方が良いのではと感じました。その方が、司会の方の負担も減りますし、タイムキーパーが時間管理、メンバーに声かけをすることで、もっと時間に対する意識が高まり、話し合いもより良いものになるのではと感じました。ご検討の程、よろしく願い申し上げます。又、1日目と2日目でSGDのグループが変わってもよいかなとも思いました。
- もう少し他の班の方とも交流する時間がほしかったです。
- SGDの発表がチーム内のものであり、他のチームがどんな意見があったのかを知る機会がなかったこと。
- 話し合いの時間がたっぷりあった割に、発表の時間が短く、話し合った内容を十分に表現できていない班もあるように思った。大学で1人しか参加できないことが問題だと思った。
- 事前にワークの内容を知らせておくことで、より深い考えをもって、討議に臨めたかと思えます。

- 大都会からの参加者が多いことや、今回のテーマもあるのだろうが、地域医療に関する意見、特に高齢化が進んだ地方における意見が出なかったのは意外だった。(出身地の南大隅〔鹿児島〕は H22 に高齢化率が既に 44% を超えており、自分としては非常に興味のある話題だった。
- プログラムを見て長いと思った。討論時間が実際には足りなかった。(時間内にまとめあげることも大切ですが)
- 議論に夢中になりすぎて、飲水やお手洗いにいくことを忘れてしまっていることもありました。→申し訳ありません、個人の問題ですが。
- 特別講演の時間をもう少し、とってもらえると良かったです。
- 時間的にあまりよゆうがなかった点。
- 時間配分、もう少しゆとりがほしかったです。
- 時間 (スケジュール) がタイト。
- グループで少し固まってしまったかな? という印象がありました。時間がみじかかった。
- 与えられたテーマがややぼんやりとしていることがあり、まとめ方が難しかったように思った。
- SGD が昼食にかぶる。
- 1 日目のアドバンスト情報交換会→アドバンストこそ酒類の提供があるべきだった。
- 時間の延長がたびたびあり、予定通りに終わらなかった点。
- 学生の SGD の様子を見せてほしい。どの程度の盛り上がりだったのか、討議のプロセスも知りたい。
- パワーポイントをつくる際、プロジェクターがほしかった。→他の人が見えない。
- 学生の意見だけではなく、先生方の意見もききたい。もっと年上の先輩方の意見がききたい。時間配分に余裕をもってほしい。
- テーマについて (SGD 等) 自由な意見、発想を期待してか、テーマが漠然として大きかったので、ある程度、場合分けの必要性等アドバイスがあるとよかった。

4. その他の意見 (ご自由に)。

- 意識の高い学生と話し合うことで、自分の意識も高まると実感できた。
- 貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。
- 同期の薬学部生と話せるととても良い機会となりました。今後もぜひこのワークショップを続けて行って欲しいです。
- 結局はボトムアップが大切だと先生が仰ってていましたが、その通りだと本当に思いました。今回各大学のトップの人が来て、積極的に意見を発しておられ、とても刺激になりました。機会があればまた参加して自分自身のあるべき姿をかくにんしていきたいです。
- このような、楽しい体験ができてよかった。
- このような貴重な機会をいただけて、大変ありがたかったです。薬学教育をよりよくするため、私も何かしら協力できたらと思いました。
- タスクフォースの先生方ありがとうございました。スムーズに進むように尽力してください

たのがとても伝わりました。鈴木先生がとてもおもしろかったです。

- 各大学の参加者を選ぶ際は、自主的に参加する学生を選んだ方が、より実りのある討論にあると思った。
- やはり、2日間で出た色々な意見を現実に行動する予定に明確に落とし込む必要があると思いました。
- 意見交換会が良かったです。2日目があっという間に時間が経った気がします。
- 同じグループ以外をもっと絡める機会があったら幸いでした。
- 全国だけでなく関東、中国地方などの地域でも行うといいと思いました。
- 今回のワークショップでとてもよい刺激を受けました。次回も開催されるなら是非参加したい！！ありがとうございます。
- 先生方お疲れ様でした。ありがとうございました。
- 全体的に少し押し気味で、進行となってしまった為、もう少しよゆうのあるタイムテーブルだと最高でした。
- 料理が美味でした。
- 低学年時からあっても良いのではと思います。
- 他大学の熱意が良い刺激となり、自らの学習に対するモチベーションが高まった。
- ダジャレがなごやかなふんいきをつくってくれてよかった。
- 地方で普段視野がせまくなりがちということも併せ、2日間本当に有意義な時間を過ごすことができました。もっとたくさんの人にこのシステムに参加してほしいです。
- 短い時間でしたが、有意義な時間でした。
- 今回のワークショップのテーマは、非常に抽象的であり難しく、それ故に議論が盛り上がるものではあったが、制限時間のために不十分な議論で終わってしまうことになる。(←あえて、不十分なものとしているのであれば、狙い通りです。)
- またぜひ参加したいです。
- 3年連続で参加させていただきました。ここに来ると、自分の未熟さを実感すると共に「まだまだ自分達はやれるんだ、頑張れるんだ」という気持ちになります。運営の皆様、2日間ありがとうございました。
- ワークショップの議題、テーマが事前にわかっていたら、より一層深い、良い議論になる可能性があったと思います。
- 臨床に進む方が多かったので、自身の進路（企業）から皆に知ってほしいこともありましたが伝えきれず残念でした。
- 今回、また参加させて頂けて、とてもうれしかったです。いつもWSメンバーに会うと、おいていかれないように、そして、次回会うまでに少しでも前進していないといけないなといつも思います。このように刺激しあえる仲間に出会えた機会を作って頂いて、本当に感謝しています。ありがとうございました。
- 6年生の意見を昨年とどのように変わっていたかを聞きたかった。昨年のテーマ設定でも、医療貢献、社会貢献の発表が各班からあっただけに、来年度は、改めて、薬学教育からの視点で、ディスカッションをしていただきたいです。2日間大変お世話になりました。

- 2日目、あっというまでしたが、とても楽しかったです。ぜひ、またこのような事があったら参加したいと思います。
- 貴重な機会をありがとうございました！来年も呼んで下さい！！
- もっとこういった機会を増やしてほしい。
- こういった社会貢献に関するディスカッションは、他大学との交流時にやってお互いの刺激にしていくのが良いように思いました。
- 一期生として、頑張り続けたいと思えないと思った。
- 最初は参加することが乗り気ではなかったですが、今では参加して良かったと思います。このような機会をいただき、ありがとうございました。これからも、モチベーションを保ちつつ学んでいきたいと思っています。
- 自分の知識不足や考え方が浅いことを痛感しました。
- 薬学という志を同じくした仲間と知り合えて本当に良かった。このつながりを大事にしていきたい。
- 来年度も、このような機会がございましたらぜひ参加させていただきたいと思っています。よろしくをお願いします。
- あっという間の2日間でした！大変有意義な時間となりました。有難うございました。
- 先生方のアドバイスで、班がまとまることが良くありました。こういう考えを持って挑めばいいのかと知ることができた。
- 今回このような機会を設けて頂きありがとうございました。ココで得たことを少しでも大学の人にも知ってもらえるようにしていきたいです。
- 総合とうろんで発言する人がすごく増えたことから、このワークショップですごく自分の考えが明確になったり、表現したいというモチベーションが上がったりしていると思う。
- 2日間、多くの刺激をいただきました。この刺激を、これからのやる気にかえていきたいです。ありがとうございました。
- 先輩方からのアドバイスが今後の、励みになった。
- 貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。大学に戻り、学生全体にフィードバックできたらと思います。
- 九州支部や関西支部などの、地方での会があると良いです。
- この様な機会に参加させていただいてとてもこうえいに思えます。今後も日薬会を通してこの様な会をひらいてほしいと思いました。ありがとうございました。
- 大変貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。
- 皆さんに出会えて本当によかったです。
- 次回、3期生として参加させていただきたいです！！2日間、本当に充実した時を過ごすことができました。ありがとうございました。
- 今回WSに出席でき、様々な体験ができたことをとても幸せに思っています。全てに尽力して下さったタスクフォースの先生方、薬学会の関係者の皆様、ありがとうございました。
- これから、ずっとこのようなワークショップが続けて頂けたらうれしいです。
- 導入の他己紹介、大変良かったと思います。

- タスクフォースの先生方とも討論する機会がほしいです。現場で働きはじめた6年制と、育てる先生方の意見を交換する場を作って頂きたいです。
- 2日間あっという間でしたが、本当に貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- 議論の方法等、とても勉強になった。
- 本当に充実した2日間をすごせました。今後、薬剤師になっても、今日のことを活かしていこうと思います。ありがとうございました。
- 夜の交流会は、あくまでディスカッションの場になればよいかな、と思いました。我々一期生は、「もっと議論がしたい！！」という思いを込めて交流の場がほしいと申し出ました。(当時のWSのみではもの足りなかったので) 具体的な対策は思いつきませんが・・・・(すみません) 次回以降に反映して頂けたら幸いです。

第3回全国学生ワークショップ実行委員

入江 徹美	(熊本大院薬)
賀川 義之	(静岡県大薬)
◎ 亀井 美和子	(日本大薬)
川崎 郁勇	(武庫川女大薬)
木内 祐二	(昭和大薬)
河野 武幸	(摂南大薬)
塩田 澄子	(就実大薬)
鈴木 匡	(名市大院薬)
高橋 寛	(秋田県薬剤師会)
徳山 尚吾	(神戸学院大薬)
中村 明弘	(昭和大薬)
橋詰 勉	(京都薬大)
平田 收正	(阪大院薬)
安原 智久	(摂南大薬)

◎実行委員長

発行 2014年6月

公益社団法人 日本薬学会

薬学教育委員会

日本薬学会第3回全国学生ワークショップ実行委員会